

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/001244

International filing date: 28 January 2005 (28.01.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-029867
Filing date: 05 February 2004 (05.02.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 24 March 2005 (24.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

02. 2. 2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 2 月 5 日
Date of Application:

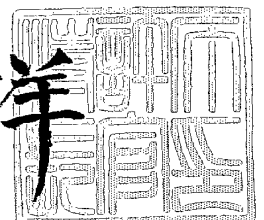
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 0 2 9 8 6 7
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 4 - 0 2 9 8 6 7]

出 願 人 松 下 電 器 産 業 株 式 会 社
Applicant(s):

2 0 0 5 年 3 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川 洋



出証番号 出証特 2 0 0 5 - 3 0 2 0 4 2 2

【書類名】 特許願
【整理番号】 7048050052
【提出日】 平成16年 2月 5日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 G06F 19/00
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 杉浦 雅貴
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 塚本 義弘
【発明者】
 【住所又は居所】 神奈川県横浜市都筑区佐江戸町 6 0 0 番地 パナソニック M S E
 株式会社内
 【氏名】 布下 正意
【特許出願人】
 【識別番号】 000005821
 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社
【代理人】
 【識別番号】 230104019
 【弁護士】
 【氏名又は名称】 大野 聖二
 【電話番号】 03-5521-1530
【選任した代理人】
 【識別番号】 100106840
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 森田 耕司
 【電話番号】 03-5521-1530
【選任した代理人】
 【識別番号】 100105038
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 田中 久子
 【電話番号】 03-5521-1530
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 185396
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲**【請求項 1】**

メディアデータを挿入可能なマルチメディアテンプレートを再生する再生手段と、
前記再生手段による前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータの選択に関わるユーザの指示を受け付けるメディアデータ受付手段と、

前記メディアデータ受付手段を介して選択されたメディアデータを挿入して前記マルチメディアテンプレートを前記再生手段に再生させる制御手段と、

前記メディアデータ受付手段を介して選択されたメディアデータの確定に応じて、前記マルチメディアテンプレートと前記確定されたメディアデータとに基づいてマルチメディアコンテンツを作成するマルチメディアコンテンツ作成手段と、

を備えたことを特徴とするコンテンツ作成装置。

【請求項 2】

前記再生手段は、ユーザからのメディアデータ選択開始の指示があってからメディアデータ選択完了までの間、前記マルチメディアテンプレートの再生を停止することを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 3】

前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記メディアデータを挿入可能な期間に関連して、ユーザにメディアデータの選択を促す手段を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 4】

前記選択を促す手段は、前記挿入可能な期間の開始時に、前記マルチメディアテンプレートの再生を停止することを特徴とする請求項 3 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 5】

前記選択を促す手段は、前記挿入可能な期間にメディアデータの選択受付可能な期間であることをユーザに提示することを特徴とする請求項 3 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 6】

前記選択を促す手段は、前記メディアデータの選択候補に関する情報を画面に表示することを特徴とする請求項 3 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 7】

前記再生手段は、前記メディアデータを挿入する挿入範囲を画像として、再生中のマルチメディアテンプレートに表示することを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 8】

前記挿入範囲を表示する画像の選択に応じて、前記挿入範囲へのメディアデータの挿入を受け付けることを特徴とする請求項 7 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 9】

前記制御手段は、前記メディアデータ受付手段を介して選択されたメディアデータの再生を開始する位置を、前記メディアデータを挿入可能な部分の再生開始から前記メディアデータ受付手段によるメディアデータの受け付けまでに経過した前記マルチメディアテンプレートの再生時間分だけ、前記メディアデータの先頭からシフトすることを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 10】

前記メディアデータ受付手段は、撮像手段により撮像中の動画像または静止画像を前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータとする指示を受け付け可能であることを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ作成装置。

【請求項 11】

メディアデータを挿入可能なマルチメディアテンプレートを再生し、

前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータの選択に関わるユーザの指示の入力を受け付け、

入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータを挿入して前記マルチメディアテンプレートを再生し、

入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータの確定に応じて、前記マルチメディアテンプレートと前記確定されたメディアデータとに基づいてマルチメディアコンテンツを作成する、

ことを特徴とするコンテンツ作成方法。

【請求項 1 2】

マルチメディアコンテンツを作成するためのプログラムであって、

メディアデータを挿入可能なマルチメディアテンプレートを再生し、

前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータの選択に関わるユーザの指示の入力を受け付け、

入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータを挿入して前記マルチメディアテンプレートを再生し、

入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータの確定に応じて、前記マルチメディアテンプレートと前記確定されたメディアデータとに基づいて動画像コンテンツを作成する、

処理をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。

【書類名】 明細書**【発明の名称】** コンテンツ作成装置、およびコンテンツ作成方法**【技術分野】****【0001】**

本発明は、マルチメディアコンテンツを作成する装置および方法に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、画像、音声、文字列等のメディアデータからなるマルチメディアコンテンツが、例えば、携帯電話等で利用されている。このようなマルチメディアコンテンツを一般のユーザが容易に作成できるようにするための方法が特許文献1等によって知られている。

【0003】

特許文献1には、改変不能な基幹部分とユーザが編集可能な範囲を含むマルチメディアテンプレートをユーザに提供し、マルチメディアテンプレートの編集可能な範囲にあてはめるメディアデータをユーザに選択させる方法が記載されている。特許文献1に記載された方法は、編集対象のマルチメディアテンプレートを読み出したときに、編集可能なタイミングと選択可能なメディアデータを列挙してユーザに提示し、ユーザからの編集操作の入力を受け付ける。そして、マルチメディアテンプレートの編集終了後に必要に応じて、編集されたマルチメディアデータをプレビュー表示する。その後、ユーザにより編集終了の指示がなされたときに編集を終了し、編集されたマルチメディアデータを出力する。

【特許文献1】 特開2003-281461号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記特許文献1に記載された方法では、編集操作の入力をすべて受け付けた後に必要に応じてプレビュー表示するので、編集操作を行うときには出来上がりのコンテンツが分からず、マルチメディアテンプレートの内容に合ったメディアデータを選択するのが困難である。特に携帯端末では入出力インターフェースが制限されているため、マルチメディアテンプレートと選択すべきメディアデータの両方を同時に再生して内容を確認することが難しく、マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択してマルチメディアコンテンツを作成することが困難である。

【0005】

本発明は、上記背景に鑑み、マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択してコンテンツを作成できるコンテンツ作成装置およびコンテンツ作成方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本発明のコンテンツ作成装置は、メディアデータを挿入可能なマルチメディアテンプレートを再生する再生手段と、前記再生手段による前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータを選択に関わるユーザの指示を受け付けるメディアデータ受付手段と、前記メディアデータ受付手段を介して選択されたメディアデータを挿入して前記マルチメディアテンプレートを前記再生手段に再生させる制御手段と、前記メディアデータ受付手段を介して選択されたメディアデータの確定に応じて、前記マルチメディアテンプレートと前記確定されたメディアデータとに基づいてマルチメディアコンテンツを作成するマルチメディアコンテンツ作成手段とを備える。

【0007】

この構成により、マルチメディアテンプレートの再生中にメディアデータを選択を受け付け、選択されたメディアデータを挿入してマルチメディアテンプレートを再生するので、作成されるマルチメディアテンプレートを確認しつつ、マルチメディアテンプレートに

合ったメディアデータを選択できる。また、選択されたメディアデータの確定に応じて初めてマルチメディアコンテンツを作成する構成であるので、メディアデータの確定をするまでは、いったん選択されたメディアデータを新たに選択された他のメディアデータに容易に変更できる。また、メディアデータの選択履歴を保持する構成とすれば、選択内容を元に戻す操作により、以前に選択したメディアデータを挿入して再生することが容易になる。

【0008】

前記再生手段は、ユーザからのメディアデータ選択開始の指示があつてからメディアデータ選択完了までの間、前記マルチメディアテンプレートの再生を停止してもよい。

【0009】

この構成により、メディアデータの選択中にマルチメディアテンプレートの再生が停止するので、時間をかけてメディアデータを選択することができる。

【0010】

また、本発明のコンテンツ作成装置は、前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記メディアデータを挿入可能な期間に関連して、ユーザにメディアデータの選択を促す手段を備えてもよい。

【0011】

この構成により、メディアデータの選択をユーザに促すことができる。例えば、メディアデータの挿入可能な期間が開始することを、その期間が開始する前にユーザに知らせてメディアデータの選択を促すことも可能である。

【0012】

前記選択を促す手段は、前記挿入可能な期間の開始時に、前記マルチメディアテンプレートの再生を停止してもよい。

【0013】

この構成により、挿入可能な期間が開始するタイミングでメディアデータの選択を行える。

【0014】

前記選択を促す手段は、前記挿入可能な期間にメディアデータの選択受付可能な期間であることをユーザに提示してもよい。

【0015】

この構成により、メディアデータを選択可能であることをユーザに提示できる。特に、音声のようにメディアを挿入する範囲がマルチメディアテンプレートの再生画面に表示されない場合には、この構成が有効である。

【0016】

前記選択を促す手段は、前記メディアデータの選択候補に関する情報を画面に表示してもよい。

【0017】

この構成により、メディアデータを速やかに選択可能となる。

【0018】

また、本発明のコンテンツ作成装置において、前記再生手段は、前記メディアデータを挿入する挿入範囲を画像として、再生中のマルチメディアテンプレートに表示してもよい。

【0019】

この構成により、マルチメディアテンプレート中でメディアデータが挿入される範囲を知らせるので、その範囲に合ったメディアデータを選択可能となる。

【0020】

マルチメディアテンプレートに表示された挿入範囲の画像の選択に応じて、前記挿入範囲へのメディアデータの挿入を受け付けてもよい。

【0021】

この構成により、再生中のマルチメディアテンプレートに複数の挿入範囲が存在する場合

合のメディアデータ選択のインターフェースを分かりやすくできる。これにより、例えば、選択したメディアデータを意図した挿入範囲と異なる挿入範囲に入れてしまう可能性を低減できる。

【0022】

また、本発明のコンテンツ作成装置において、前記制御手段は、前記メディアデータ受付手段を介して選択されたメディアデータの再生を開始する位置を、前記メディアデータを挿入可能な部分の再生開始から前記メディアデータ受付手段によるメディアデータの受け付けまでに経過した前記マルチメディアテンプレートの再生時間分だけ、前記メディアデータの先頭からシフトしてもよい。

【0023】

この構成により、挿入可能な部分の再生開始からの経過時間に応じてメディアデータの再生開始位置をシフトするので、メディアデータが選択されたタイミングによらず、テンプレートで指定された固定メディア（背景画像やBGMなど）と同期して合成しながら、選択されたユーザメディアの再生を行うことができる。

【0024】

また、本発明のコンテンツ作成装置において、前記メディアデータ受付手段は、撮像手段により撮像中の動画画像または静止画像を前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータとする指示を受け付け可能としてもよい。

【0025】

この構成により、撮像中の画像をそのまま利用して、マルチメディアコンテンツを作成できる。

【0026】

本発明のコンテンツ作成方法は、メディアデータを挿入可能なマルチメディアテンプレートを再生し、前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータの選択に関わるユーザの指示の入力を受け付け、入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータを挿入して前記マルチメディアテンプレートを再生し、入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータの確定に応じて、前記マルチメディアテンプレートと前記確定されたメディアデータとに基づいてマルチメディアコンテンツを作成する。

【0027】

この構成により、本発明のコンテンツ作成装置と同様に、作成されるマルチメディアテンプレートを確認しつつ、マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択できる。また、本発明のコンテンツ作成方法に、上記した本発明のコンテンツ作成装置の各種の構成を適用することも可能である。

【0028】

本発明のプログラムは、マルチメディアコンテンツを作成するためのプログラムであって、メディアデータを挿入可能なマルチメディアテンプレートを再生し、前記マルチメディアテンプレートの再生中に、前記マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータの選択に関わるユーザの指示の入力を受け付け、入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータを挿入して前記マルチメディアテンプレートを再生し、入力されたユーザの指示により選択されたメディアデータの確定に応じて、前記マルチメディアテンプレートと前記確定されたメディアデータとに基づいて動画画像コンテンツを作成する処理をコンピュータに実行させる。

【0029】

この構成により、本発明のコンテンツ作成装置と同様に、作成されるマルチメディアテンプレートを確認しつつ、マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択できる。また、本発明のプログラムに、上記した本発明のコンテンツ作成装置の各種の構成を適用することも可能である。

【発明の効果】

【0030】

本発明は、マルチメディアテンプレートの再生中に選択されたメディアデータを挿入してマルチメディアテンプレートを再生するので、作成されるマルチメディアテンプレートを確認しつつ、マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択できるというすぐれた効果を有する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0031】

以下、本発明の実施の形態のコンテンツ作成装置について図面を用いて説明する。

【0032】

図1は、コンテンツ作成装置10の構成を示す図である。コンテンツ作成装置10は、マルチメディアコンテンツ（以下、「コンテンツ」という）を作成するための装置である。本実施の形態において、コンテンツ作成装置10は、例えば、携帯電話、携帯情報端末である。図1に示すように、コンテンツ作成装置10は、マルチメディアテンプレート（以下、「テンプレート」という）を記憶するテンプレート記憶部12と、ユーザメディア20を記憶するユーザメディア記憶部18と、コンテンツシナリオ24を記憶するコンテンツ記憶部22と、ユーザインターフェースを構成する入力部26および出力部28と、全体を制御する制御部30とを備えている。

【0033】

テンプレート記憶部12には、動画、静止画、音声、テキスト等の各種のメディアデータの再生開始時刻、再生終了時刻、および表示領域を規定するテンプレートシナリオ16と、テンプレートシナリオ16に従って再生されるメディア（以下、「固定メディア」という）14とが記憶されている。固定メディア14がテンプレートシナリオ16に従って再生されることにより、テンプレートが再生される。

【0034】

図2は、テンプレートシナリオ16の例を示す図である。図2に示すように、テンプレートシナリオ16には、テンプレートを構成する各メディアデータの再生開始時刻、再生終了時刻および表示領域の情報が記述されている。例えば、図2に示すテンプレートシナリオ16の第1行の「open.mpg」の動画については、再生開始時刻が0秒、再生終了時刻が3秒で、表示領域が（5,5,200,200）で囲まれる領域であることが記述されている。

【0035】

また、テンプレートシナリオ16には、メディアデータを挿入可能な挿入可能部分が規定されている。挿入可能部分は、メディアデータの挿入可能期間および挿入範囲と挿入されるメディアデータの種類の情報とにより規定されている。本実施の形態では、挿入可能部分が再生されるときには、メディアデータの挿入範囲にガイド用メディアが表示される。これにより、メディアデータの挿入可能期間および挿入範囲を一目で把握できる。このガイド用メディアの情報もテンプレートシナリオ16に記述されている。例えば、図2に示すテンプレートシナリオ16の第3行は、再生時刻3～13秒において挿入範囲（5,5,200,150）にガイド用メディアとして「image.jpg」を表示することが記述されている。なお、挿入可能部分に挿入するメディアデータが選択された場合には、ガイド用メディアは再生されない。

【0036】

図3は、図2に示すテンプレートを再生したときの画面表示を示す図である。再生時刻0～3秒では「open.mpg」の固定メディア14が再生され、図3に示すように「～自己紹介～」の画像が表示される。再生時刻3～13秒では、図2に示すテンプレートシナリオ16に記述されているように「back1.jpg」の固定メディア14と2つのガイド用メディアが再生される。図3に示すように、動画像の挿入範囲であることを示す「ムービー」と記述された領域の画像と、テキストデータの挿入可能範囲であることを示す「テキスト1（名前）」と記述された領域の画像が表示される。

【0037】

図1に戻って、ユーザメディア記憶部18について説明する。ユーザメディア記憶部18は、ユーザにより取得されたユーザメディア20を記憶する。ユーザメディア20は、

例えばインターネット等を通じてダウンロードされた動画像や、撮像手段により撮像された静止画像などである。ユーザメディア記憶部 18 に記憶されたユーザメディア 20 は、挿入可能部分に挿入されるメディアデータの候補となるデータである。

【0038】

コンテンツ記憶部 22 は、テンプレートにメディアデータを挿入して作成されたコンテンツをコンテンツシナリオ 24 の形式で記憶する。コンテンツシナリオ 24 は、テンプレートシナリオ 16 と同様に、コンテンツを構成するメディアデータの再生時間および表示領域を規定するものである。

【0039】

次に、制御部 30 の構成について説明する。制御部 30 において、再生制御部 32 は、テンプレートまたはコンテンツを再生する機能を有する。テンプレートを再生する際に、テンプレートの挿入可能部分に挿入するメディアデータが選択されている場合には、選択されたメディアデータを挿入してテンプレートを再生する。

【0040】

制御部 30 において、時間管理部 34 は、再生中のテンプレートまたはコンテンツの再生時間を管理する機能を有する。

【0041】

挿入制御部 36 は、挿入可能部分に挿入すべきメディアデータを選択させる機能を有する。

【0042】

シナリオ変換部 38 は、挿入可能部分への挿入が確定されたメディアデータをテンプレートシナリオ 16 に書き込み、コンテンツシナリオ 24 を作成する機能を有する。

【0043】

以上、本実施の形態のコンテンツ作成装置 10 の構成について説明した。なお、本実施の形態のコンテンツ作成装置 10 は、図 1 に示す各構成要素を実現するモジュールを備えたプログラムをコンピュータに読み込むことにより実現することもでき、このようなプログラムも本発明の範囲に含まれる。

【0044】

次に、本実施の形態のコンテンツ作成装置 10 の動作について説明する。図 4～図 8 は、コンテンツ作成装置 10 の動作を示すフローチャートである。

【0045】

図 4 に示すように、まず、コンテンツ作成装置 10 の制御部 30 は、テンプレート記憶部 12 に記憶されたテンプレートのファイル一覧を生成し、生成したテンプレートファイル一覧を出力部 28 に渡す (S10)。ファイル一覧を受け取った出力部 28 が、テンプレートのファイル一覧を表示する (S12)。

【0046】

図 9 は、出力部 28 により表示されるテンプレートのファイル一覧の画面例を示す図である。図 9 に示すように、テンプレート一覧画面では、自己紹介のためのテンプレートや年賀状のためのテンプレート等、テンプレート記憶部 12 に記憶されたテンプレートの名称が列挙される。この画面で一のテンプレートを選んで選択ボタンを押すと、入力部 26 から制御部 30 にテンプレート選択要求が伝えられ、編集対象のテンプレートが選択される。

【0047】

コンテンツ作成装置 10 の制御部 30 は、ユーザが入力部 26 からテンプレートの選択要求を入力したか判定する (S14)。制御部 30 は、ユーザからの選択要求が入力されるまでこの判定を繰り返し行い、ユーザからのテンプレート選択要求を待つ。なお、図 9 に示す画面において「取消」ボタンが選択された場合には、コンテンツ作成装置 10 の動作は終了する。

【0048】

ユーザによりテンプレートが選択され、入力部 26 からテンプレートの選択要求が入力

されると、入力部 26 は制御部 30 にテンプレートの選択要求を伝える。これを受けて制御部 30 は、選択されたテンプレートの再生を再生制御部 32 に要求する (S16)。

【0049】

再生制御部 32 は、テンプレート再生の要求を制御部 30 から受け取ると、選択されたテンプレートをテンプレート記憶部 12 から読み出し、再生スケジュールを生成する (S18)。以下の説明では、図 2 に示すテンプレートが選択されたとする。再生制御部 32 は、時間管理部 34 に計時開始を指示し、これを受けて時間管理部 34 が再生開始からの経過時間の計時を開始する (S20)。

【0050】

引き続き、図 5 を参照して、コンテンツ作成装置 10 の動作を説明する。再生制御部 32 が時間管理部 34 での計時結果を取得し (S22)、取得した計時結果に基づいて、再生終了時刻か否かを判定する (S24)。図 2 に示す例では、テンプレートの再生終了時刻は 25 秒であるので、計時結果が 25 秒以上の場合には再生終了時刻であると判定し、計時結果が 25 秒未満の場合には再生終了時刻ではないと判定する。この判定の結果、計時結果が再生終了時刻であると判定された場合には、コンテンツ作成装置 10 の動作を終了する。

【0051】

計時結果が再生終了時刻でない場合、再生制御部 32 は、テンプレートの再生スケジュールの中で再生時刻に達した固定メディア 14 およびガイド用メディアを検索する (S26)。ここでの検索は、テンプレートの各メディアの再生開始時刻に基づいて行う。図 2 に示す例では、計時結果が 3 秒の場合、「back1.jpg」の固定メディア 14 と、「image.jpg」「text1.txt」のガイド用メディアが検索される。再生制御部 32 は、再生時刻に達したメディアの検索結果に基づき、該当メディアが存在するか否かの判定を行う (S28)。この判定の結果、該当メディアがあると判定された場合、再生制御部 32 は検索されたメディアデータを、テンプレート記憶部 12 から読み出して出力部 28 に渡し、出力部 28 が該当メディアを出力する (S30)。出力部 28 は、該当メディアの種類に応じた形式で出力を行う。例えば、該当メディアが音声の場合には音声出力し、該当メディアが動画の場合には画像表示および音声出力を行う。なお、該当メディアがないと判定された場合には、コンテンツ作成装置 10 の動作は、計時結果を取得するステップ (S22) に移行する。ここまでは、コンテンツ作成装置 10 がテンプレートの選択を受け付け、選択されたテンプレートを再生する動作である。

【0052】

続いて、テンプレート再生中に編集要求があったときの動作について説明する。以下の説明では、図 10 (a)～図 10 (d) および図 11 (a)～図 11 (d) の画面表示例を動作フローと併せて参照しつつ説明する。

【0053】

図 5 に示すように、コンテンツ作成装置 10 は、テンプレート再生中に、ユーザからの編集要求が入力部 26 に入力されたか否かを判定する (S32)。編集要求を受け付けるため、出力部 28 は、テンプレート再生中に編集要求を入力するための入力部 26 としての編集ボタンを画面の一部に表示する。図 10 (a) では、テンプレート再生領域の下方に編集ボタンが表示されている。なお、図 10 (a) は、図 2 に示すテンプレートの再生時間 13～23 秒を再生中の画面例である。編集ボタンを押すと、編集要求が入力部 26 に入力される。

【0054】

編集要求が入力されたか否かの判定ステップ S32 において編集要求が入力されなかったと判定された場合には、コンテンツ作成装置 10 の動作は、計時結果を取得するステップ (S22) に移行し、テンプレートの再生を続ける。編集要求が入力部 26 に入力されたと判定された場合には、図 6 に示すフローに移行する。

【0055】

図 6 に示すように、再生制御部 32 は、編集要求が入力されると、テンプレートの再生

を一時停止し、時間管理部 34 での計時結果を取得して制御部 30 に伝える。また、再生制御部 32 は、時間管理部 34 での計時の一時停止要求を制御部 30 に伝える (S34)。制御部 30 は、再生制御部 32 からの要求に従い、時間管理部 34 に計時の一時停止を要求し、これを受けた時間管理部 34 は計時を一時停止する (S36)。

【0056】

続いて、制御部 30 は、挿入制御部 36 に対し、ガイド用メディアの抽出を要求する (S38)。この際、制御部 30 は、再生中のテンプレートファイル名と現時点での再生経過時刻を示す計時結果とを挿入制御部 36 に伝える。挿入制御部 36 は、計時結果を用いて現時点の再生経過時刻を求め、テンプレートの現在再生中の部分からガイド用メディアを抽出する (S40)。そして、挿入制御部 36 は、ガイド用メディアが抽出されたか否かを判定する (S42)。図 2 に示す例では、計時結果が 3 秒から 23 秒のときガイド用メディアありと判定され、その他の時刻ではガイド用メディアなしと判定される。この判定により、ガイド用メディアなしと判定された場合は、挿入制御部 36 は、入力された編集要求が無効である旨を制御部 30 に通知し、制御部 30 は出力部 28 に編集要求無効のメッセージを表示する (S44)。出力部 28 は、例えば「現在編集不可能です」等のメッセージを表示する。

【0057】

本実施の形態において、ガイド用メディアの有無の判定結果に応じて編集要求が有効か無効かを判定しているのは、図 2 にて説明したようにメディアデータの挿入可能部分にはガイド用メディアが再生されるためである。すなわち、ガイド用メディアの有無と挿入可能部分の有無とが一致しているので、ガイド用メディアの有無を判定することにより挿入可能部分の有無を判定できる。なお、ガイド用メディアの有無に基づく判定に代えて、挿入制御部 36 にメディアデータの挿入可能か否かを問い合わせる構成とすることも可能である。

【0058】

ガイド用メディアの有無の判定ステップ (S42) において、ガイド用メディアありと判定された場合には、挿入制御部 36 は、検索されたガイド用メディアの一覧を出力部 28 に渡し、出力部 28 がガイド用メディアに関する情報 (メディア種別や識別番号等) の一覧を表示する (S46)。図 10 (b) は、編集ボタンが押された時点の画面におけるガイド用メディアの一覧を表示する画面である。図 10 (b) に示す画面でガイド用メディアを選択することにより、メディアデータを挿入する編集対象の挿入可能部分を選択することができる。

【0059】

図 10 (b) に示す画面において、ユーザにより編集対象が選択されると、入力部 26 が編集対象の選択の入力を受け付ける (S48)。編集対象の選択の入力を受け付けると、コンテンツ作成装置 10 の動作は、図 7 に示すフローに移行する。ここでは、編集対象として画像が選択されたとする。

【0060】

図 7 に示すように、編集対象の選択の入力を受け付けると、挿入制御部 36 は、編集対象のテンプレートの挿入可能部分に挿入するメディアデータをユーザメディア記憶部 18 から読み出すか否かを判定する (S50)。まず、メディアデータをユーザメディア記憶部 18 から読み出す場合について説明する。

【0061】

メディアデータをユーザメディア記憶部 18 から読み出す場合、挿入制御部 36 がユーザメディア記憶部 18 を検索し、検索されたユーザメディア 20 の一覧を生成し、挿入可能部分に挿入可能なメディアデータの候補として出力部 28 に渡す (S52)。ここで、ユーザメディア 20 の検索は、挿入可能部分のメディアの種類に基づいて行う。なお、挿入範囲のサイズや、挿入可能部分の時間長に基づき、検索を行っても良い。検索された候補の一覧を受けた出力部 28 は、メディアデータの候補の一覧を表示する (S54)。

【0062】

図10(c)は、メディアデータの候補の一覧を表示し、挿入するメディアデータを選択させる画面である。挿入可能部分に挿入可能な画像として画像1から画像8まで表示されている。この画面において、一の画像を選んで選択ボタンを押すことにより挿入する画像を選択できる。

【0063】

続いて、コンテンツ作成装置10は、入力部26にメディアデータの選択の入力がなされたか否かを判定する(S56)。コンテンツ作成装置10は、ユーザからの選択が入力されるまでこの判定を繰り返し行い、ユーザからのメディアデータの選択の入力を待つ。

【0064】

ユーザによりいずれかの画像が選択されると、入力部26は制御部30にメディアデータの選択要求を伝える。制御部30は、選択されたメディアデータのファイル名を一時記憶すると共に、再生制御部32に選択されたメディアデータのファイル名を伝える(S58)。

【0065】

図12は、制御部30に一時記憶する記憶領域の例を示す図である。図12に示すように、制御部30の記憶領域には、テンプレート中のそれぞれの挿入可能部分に挿入されるメディアデータの情報がユーザの選択要求に応じて一時記憶される。この情報は、新たなメディアデータが選択された場合には、書き換えられる。なお、メディアデータの書き換えを行う際に、書き換え前のメディアデータの情報を選択履歴として残す構成としてもよい。これにより、書き換え前の状態に容易に戻すことができる。

【0066】

次に、再生制御部32は、時間管理部34に計時再開を指示し、これを受けた時間管理部34が計時を再開する(S64)。そして、再生制御部32が、一時停止されたところからテンプレートの再生を再開すると共に、図10(d)に示すように、挿入可能部分の表示領域に、選択されたメディアデータを再生する(S66)。メディアデータが選択された挿入可能部分では、ガイド用メディアの再生は行われない。

【0067】

なお、挿入可能部分に挿入されるメディアデータが動画である場合には、選択された動画の再生開始位置は、時間管理部34からの指示に従って決定される。具体的には、時間管理部34は、挿入可能部分の再生開始時点から、ステップS36において再生が一時停止された時点までの経過時間を算出する。そして、再生制御部32は、時間管理部34によって算出された経過時間分だけ先頭からシフトした位置から、選択された動画の再生を開始する。これにより、テンプレート再生再開時点での挿入可能部分の再生経過時間と動画の再生開始位置からの経過時間とが一致し、作成されるコンテンツと同じ動画をプレビュー表示できる。図2に示すテンプレートシナリオ16を例として説明すると、編集ボタンが押されてテンプレートの再生が一時停止したのが再生時間8秒の時点だとすると、挿入可能部分は再生時間が3秒の時点で再生開始されているので、テンプレートの再生が一時停止されるまでに経過した時間は、 $8 - 3 = 5$ 秒である。従って、選択された動画は、先頭から5秒経過した位置から再生される。

【0068】

次に、選択された挿入可能部分に挿入するメディアデータをユーザメディア記憶部18から読み出さない場合について説明する。本実施の形態では、挿入可能部分に挿入されるメディアの種類がテキストである場合には、テキストデータをユーザメディア記憶部18から読み出すのではなく、入力部26から入力する。

【0069】

図11(a)に示すように編集対象の選択画面でテキスト3が選択されたとする。編集対象としてテキスト3が選択されたことが入力部26から制御部30に伝えられると、図7に示すように、挿入制御部36はテキスト入力画面を出力部28によって表示させる(S60)。

【0070】

図 11 (b) は、テキストの入力画面を示す図である。図 11 (b) に示す画面においてテキストが入力され、決定ボタンが押されると、入力部 26 が制御部 30 にテキストデータを伝え、制御部 30 が図 12 に示す記憶領域にテキストデータを一時記憶する。また、制御部 30 は、再生制御部 32 にテキストデータを伝える (S62)。

【0071】

この後、再生制御部 32 が時間管理部 34 に計時を再開させ (S64)、テキストデータを挿入してテンプレートの再生を再開する (S66) という動作は、メディアデータをユーザメディア記憶部 18 から読み出した場合と同じである。図 11 (c) に示すように、テキストが挿入されたテンプレートが再生される。

【0072】

なお、メディアデータをユーザメディア記憶部 18 から読み出すか、直接入力するかに関わらず、メディアデータを挿入してテンプレートを再生する画面 (図 10 (d)、図 11 (c) 参照) には、編集ボタンに加えて、確定ボタンが表示される。確定ボタンは、選択されたメディアデータでコンテンツ 24 を作成することを確定し、コンテンツ 24 を保存するためのボタンである。

【0073】

図 8 を用いて、確定ボタンが押されたときの動作について説明する。コンテンツ作成装置 10 は、ユーザにより確定ボタンが押され、入力部 26 から確定が入力されたか否かを判定する (S70)。コンテンツ作成装置 10 は、確定ボタンが表示されている間は繰り返しこの判定を行う。

【0074】

ユーザからメディアデータの確定が入力された場合、入力部 26 が制御部 30 に確定の選択を伝え、これを受けて制御部 30 は、図 11 (d) に示す保存先の確認画面を出力部 28 によって表示させる (S72)。なお、この画面では保存先の変更を行うこともできる。そして、制御部 30 は、保存先確認画面において、保存先 OK が選択されたか否かを判定する (S74)。保存先 OK が選択された場合には、入力部 26 が制御部 30 に保存先 OK を伝え、制御部 30 がシナリオ変換部 38 にメディアデータの確定および保存先を伝える (S76)。これを受けたシナリオ変換部 38 は、制御部 30 に一時記憶されたメディアデータの情報を用いてテンプレートシナリオ 16 を書き換えてコンテンツシナリオ 24 を作成し、指定された保存先に指定されたデータファイル名で保存する (S78)。以上で、コンテンツ作成装置 10 によるコンテンツ作成動作が完了する。

【0075】

図 13 は、作成されたコンテンツシナリオ 24 を示す図である。図 13 に示すコンテンツシナリオ 24 は、図 2 に示すテンプレートのテンプレートシナリオ 16 と比較すると分かるように、テンプレートの挿入可能部分にユーザが選択したメディアデータ (図 13 に下線を引いて示す) が挿入されて作成されている。

【0076】

図 14 は、作成されたコンテンツシナリオ 24 に従ってコンテンツを再生したときの画面例を示す図である。まず、再生時間 0～3 秒においては、「～自己紹介～」の画像が表示される。これは、コンテンツの元となったテンプレートの固定メディア 14 である。再生時間 3～13 秒においては、ユーザが選択した動画と、ユーザが入力した名前が表示される。再生時間 13～23 秒においては、ユーザが選択した静止画と、ユーザが入力した生年月日、血液型、ひとことが表示される。最後に、再生時刻 23～25 秒において、「～おわり～」の画像が表示される。これは、コンテンツの元となったテンプレートの固定メディア 14 である。このように、基本となるテンプレートにユーザが選択したメディアデータを挿入することによりコンテンツ 24 が作成される。

【0077】

以上、第 1 の発明の実施の形態のコンテンツ作成装置 10 について説明した。

【0078】

第 1 の実施の形態のコンテンツ作成装置 10 は、テンプレート再生中にテンプレートの

編集を受け付けるための編集ボタンを表示し、編集ボタンの押下に応じて、テンプレートに挿入するメディアデータを選択させる。そして、選択されたメディアデータを挿入してテンプレートの再生を行う。これにより、再生中のテンプレートを見ながら、挿入すべきメディアデータを選択することができるので、テンプレートに合ったメディアデータを選択可能となる。

【0079】

また、コンテンツ作成装置10は、選択されたメディアデータの情報を制御部30の記憶領域に一時記憶しておき、確定ボタンの押下に応じて、一時記憶されたメディアデータの情報をを用いてコンテンツシナリオ24を作成するので、一度メディアデータを選択した挿入可能部分についても、メディアデータの確定がなされるまでは、別のメディアデータに変更することができる。

【0080】

次に、本発明の第2の実施の形態のコンテンツ作成装置10について説明する。

【0081】

第2の実施の形態のコンテンツ作成装置10は、基本的な構成は図1に示す第1の実施の形態のコンテンツ作成装置10と同じであるが、テンプレートへのメディアデータの挿入の方法が異なる。

【0082】

図15は、第2の実施の形態のテンプレートシナリオ16の例を示す図である。第2の実施の形態のテンプレートシナリオ16は、第1の実施の形態におけるテンプレートシナリオ16と同様に、各メディアの再生開始時刻および終了時刻の情報と表示領域の情報とを有する。ただし、第2の実施の形態におけるテンプレートシナリオ16では、挿入可能部分の表示領域の情報を有しておらず、またガイド用メディアを有しない。

【0083】

図16は、図15に示すテンプレートを再生したときの画面表示を示す図である。再生時刻0～3秒では「open.mpg」の固定メディア14が再生され、図16に示すように「～自己紹介～」の画像が表示される。再生時刻3～13秒では「back1.jpg」の背景画像、再生時刻13～23秒では「back2.jpg」の背景画像が再生される。再生時刻3～23秒はメディアデータの挿入可能期間であるが、第1の実施の形態と異なりガイド用メディアの表示はされない。再生時刻23～25秒では、「end.mpg」の固定メディア14が再生され、図16に示すように「～おわり～」の画像が表示される。

【0084】

次に、第2の実施の形態のコンテンツ作成装置10の動作について説明する。

【0085】

図17～図20は、第2の実施の形態のコンテンツ作成装置10の動作を示すフローチャートである。図17に示すように、コンテンツ作成装置10は、テンプレート記憶部12に記憶されたテンプレートの情報からファイル一覧を生成し(S80)、生成したファイル一覧を画面に表示し(S82)、ユーザからテンプレート選択要求が入力されたか否かを繰り返し判定する(S84)。そして、テンプレート選択要求が入力されると、再生制御部32にテンプレートの再生を要求し(S86)、再生制御部32が選択されたテンプレートに基づいて再生スケジュールを生成する(S88)。ここまでの動作は、第1の実施の形態と同じである。

【0086】

次に、コンテンツ作成装置10は、再生制御部32が読み出したテンプレートを挿入制御部36に渡し、挿入制御部36がテンプレートから挿入可能期間の情報を抽出する(S90)。図15に示す例では、再生時間が3～13秒、13～23秒が挿入可能期間として抽出される。挿入制御部36は、抽出した挿入可能期間の情報を記憶しておく。続いて、再生制御部32は、時間管理部34に計時開始を指示し、時間管理部34に計時を開始させる(S92)。

【0087】

図 18 に移って、再生制御部 32 は、時間管理部 34 の計時結果を取得し (S94)、取得した計時結果が再生終了時刻か否かを判定する (S96)。判定の結果、計時結果が再生終了時刻である場合には、コンテンツ作成装置 10 の動作を終了する。

【0088】

計時結果が再生終了時刻でない場合には、再生制御部 32 は、制御部 30 を介して挿入制御部 36 に計時結果を伝える (S98)。挿入制御部 36 は、計時結果と、ステップ S90 で抽出した挿入可能期間の情報とに基づいて、再生時刻が挿入可能期間に入ったか否かを判定する (S100)。判定の結果、挿入可能期間に入っていないと判定された場合には、再生制御部 32 が、再生スケジュールの中で再生時刻に達したメディアを検索し (S102)、該当メディアがあるか否かを判定する (S104)。再生時刻に達したメディアがある場合には、該当メディアを出力し (S106)、再生時刻に達したメディアがない場合には、時間管理部 34 で計時結果を取得するステップ S94 に移行する。再生時刻が挿入可能期間に入ったと判定された場合には、図 19 に示すフローチャートに移行する。

【0089】

再生時刻が挿入可能期間に入ったと判定された場合には、挿入制御部 36 は、制御部 30 を介して再生制御部 32 に挿入可能期間に入ったことを伝える (S108)。これを受けて、再生制御部 32 は、テンプレートの再生を一時停止し、時間管理部 34 での計時結果を取得する。続いて、再生制御部 32 は、制御部 30 に、時間管理部 34 での計時結果を伝えると共に、時間管理部 34 の一時停止要求を伝える (S110)。これを受けて制御部 30 は、時間管理部 34 に計時の一時停止を要求し、時間管理部 34 は計時を一時停止する (S112)。

【0090】

続いて、制御部 30 は、挿入制御部 36 に挿入操作準備が完了したことを通知する (S114)。挿入制御部 36 は、ユーザメディア記憶部 18 を検索してユーザメディア 20 の一覧を生成し、メディアデータの候補として出力部 28 に渡し (S116)、出力部 28 が候補となるメディアデータの一覧を表示する (S118)。

【0091】

引き続き、図 20 を用いてコンテンツ作成装置 10 の動作について説明する。コンテンツ作成装置 10 は、メディアデータの候補の一覧が表示された画面において、ユーザが入力部 26 からメディアデータを選択したか否かを判定する (S120)。この判定は、メディアデータが選択されるまで繰り返し行われ、メディアデータが選択されるのを待つ。

【0092】

メディアデータが選択された場合、入力部 26 が制御部 30 にメディアデータの選択要求を伝え、制御部 30 が再生制御部 32 にメディアデータのファイル名を伝える (S122)。

【0093】

続いて再生制御部 32 は、時間管理部 34 に計時再開を指示し、時間管理部 34 が計時を再開する (S124)。再生制御部 32 は、テンプレートの再生を再開すると共に、選択されたメディアデータをテンプレートに重ねて再生する (S126)。

【0094】

テンプレートの再生中に、メディアデータの確定が入力されたときの動作は、第 1 の実施の形態のコンテンツ作成装置 10 と同じである。

【0095】

図 21 は、作成されたコンテンツシナリオ 24 を示す図である。図 21 に示すコンテンツシナリオ 24 は、図 15 に示すテンプレートのテンプレートシナリオ 16 と比較すると分かるように、テンプレートの挿入可能期間にユーザが選択したメディアデータ (図 21 に下線を引いて示す) が挿入されて作成されている。例えば、再生時刻 3 ～ 13 秒の挿入可能期間のうちの 4 ～ 12 秒に「my-video1.mpg」のメディアデータが再生されることが記述されている。

【0096】

図22は、作成されたコンテンツ24を再生したときの画面例を示す図である。まず、再生時間0～3秒においては、「～自己紹介～」の画像が表示される。これは、コンテンツの元となったテンプレートの固定メディア14である。再生時刻3～13秒においては、「back1.jpg」の背景画像が再生表示されるが、そのうちの再生時刻4～12秒においてはユーザにより選択された「my-video1.mpg」のメディアデータが背景画像に重ねて再生表示される。また、再生時刻13～23秒においては、「back2.jpg」の背景画像が再生表示されるが、そのうちの再生時刻14～20秒においてはユーザにより選択された「my-video2.mpg」のメディアデータが背景画像に重ねて再生表示される。最後に、再生時刻23～25秒において、「～おわり～」の画像が表示される。これは、コンテンツの元となったテンプレートの固定メディア14である。このように、基本となるテンプレートにユーザが選択したメディアデータを挿入することによりコンテンツが作成される。

【0097】

以上、第2の発明の実施の形態のコンテンツ作成装置10について説明した。

【0098】

第2の実施の形態のコンテンツ作成装置10は、第1の実施の形態のコンテンツ作成装置10と同様に、再生中のテンプレートを見ながら、挿入すべきメディアデータを選択することができるので、テンプレートに合ったメディアデータを選択可能となる。

【0099】

また、第2の実施の形態のコンテンツ作成装置10は、挿入可能期間のうちの一部にメディアデータを挿入することができるので、メディアデータを挿入する時間的な範囲をユーザが自由に選択することができる。

【0100】

次に、第2の実施の形態の変形例について説明する。変形例に係るコンテンツ作成装置10では、挿入可能期間に挿入されたメディアデータを固定メディアに重ねて再生するのではなく、挿入可能期間にメディアデータの再生期間を割り込ませる形でメディアデータを挿入する。

【0101】

図23は、挿入期間にメディアデータの再生時間を作成したコンテンツシナリオ24を示す図である。図23に示すコンテンツシナリオ24は、8～16秒に「my-video1.mpg」のメディアデータが挿入されている。図15に示すテンプレートのテンプレートシナリオ16と比較すると分かるように、最初3～13秒であった「back1.jpg」の再生時間中に、再生時刻8秒の時点から8秒間のメディアデータ（図23に下線を引いて示す）が挿入されている。これにより、「back1.jpg」の再生時間が3～8秒、16～21秒となる。これに伴い、「back2.jpg」の再生開始時刻が8秒間繰り下がっている。同様に、「back2.jpg」にも6秒間のメディアデータが挿入されており、テンプレートの総再生時間は8+6=14秒間延長されている。

【0102】

図24は、図23に示すコンテンツ24を再生したときの画面例を示す図である。まず、再生時間0～3秒においては、「～自己紹介～」の画像が表示される。再生時刻3～8秒と再生時刻16～21秒においては、「back1.jpg」の背景画像が再生表示され、その間の再生時刻8～16秒にユーザにより選択された「my-video1.mpg」のメディアデータが再生表示される。図24から分かるように、再生時刻8～16秒においてはメディアデータは背景画像に重ねて表示されるのではなく、メディアデータはその再生時間分だけテンプレートに割り込んでいる。また、再生時刻21～25秒と再生時刻31～37秒においては、「back2.jpg」の背景画像が再生表示され、その間の再生時刻25～31秒においてはユーザにより選択された「my-video2.mpg」のメディアデータが再生表示される。最後に、再生時刻37～39秒において、「～おわり～」の画像が表示される。

【0103】

図25および図26は、第2の実施の形態とその変形例の相違を説明するための図であ

る。図 25 に示すように、第 2 の実施の形態のコンテンツ作成装置 10 では、挿入可能期間内にメディアデータが挿入され、テンプレートと共に再生される。変形例に係るコンテンツ作成装置 10 では、挿入可能期間内のある時点（ここでは、再生時刻 8 秒および 25 秒）から挿入されたメディアデータの再生が開始され、その間はテンプレートの再生が一時停止される。そして、メディアデータの再生終了後からテンプレートの続きが再生される。従って、作成されるコンテンツ 24 の総時間は挿入されたメディアデータの再生時間分だけ延長される。

【0104】

なお、この変形例において、時間的な幅を持った挿入可能期間に代えて、時間的な幅を持たない時刻を挿入可能時刻として規定することもできる。これにより、テンプレートの挿入可能時刻においてメディアデータの挿入を行えば、挿入可能時刻からメディアデータの再生が開始されるコンテンツを作成できる。

【0105】

以上、本発明のコンテンツ作成装置 10 について実施の形態を挙げて説明したが、本発明は上記した実施の形態に限定されるものではない。

【0106】

上記した実施の形態では、編集対象を選択する画面（図 10（b））で編集対象の選択を受け付ける構成について説明したが、異なる方式で編集対象の選択を受け付けてもよい。例えば、図 27 に示すように、再生を一時停止した画面において、編集対象となる挿入可能部分に当てるフォーカスを切り替えることによって編集対象を選択させてもよい。

【0107】

また、上記した実施の形態においては、動画、静止画、テキストをメディアデータとして挿入する例について説明したが、音声などの他のメディアデータを挿入することも可能である。メディアデータが音声の場合、図 27 に示すように、例えば音符のマークを表示して、ユーザに音声データ挿入可能であることを知らせる。

【0108】

また、上記した実施の形態においては、あらかじめ取得済み、あるいは撮影済みの動画、静止画をユーザメディアとして挿入する例について説明したが、挿入可能部分の開始タイミングでカメラなどの撮像手段を起動し、動画や静止画を撮影しながら、テンプレートに挿入する構成とすることも可能である。

【0109】

また、上記した実施の形態においては、挿入されるメディアデータの種類がテキストである場合には、ユーザにより入力されたテキストデータを挿入する例について説明したが、メディアデータがテキストである場合にもあらかじめユーザメディア記憶部 18 に記憶されたテキストデータから選択する構成とすることも可能である。

【0110】

また、上記した実施の形態では、テンプレート再生中には常に編集ボタンを表示し、編集ボタンの押下に応じてテンプレートへの挿入可能部分を有するか否かを判定する構成としたが、挿入可能部分を再生中にのみ編集ボタンを表示する構成とすることも可能である。

【0111】

また、上記した実施の形態では、挿入可能部分に挿入するメディアデータが選択されたときには確定ボタンを表示することとしたが、テンプレート中のすべての挿入可能部分に対してメディアデータが選択されたときに初めて確定ボタンを表示することとしてもよい。

【0112】

なお、上記の実施の形態におけるテンプレートシナリオ、コンテンツシナリオの記述方法としては、複数メディアのレイアウトと再生時間を記述できる SMIL（W3C 規格）を利用することができるが、これに限定されるものではない。

【産業上の利用可能性】

【0113】

以上説明したように、本発明は、作成されるマルチメディアテンプレートを確認しつつ、マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択できるというすぐれた効果を有し、マルチメディアコンテンツを作成するコンテンツ作成装置等として有用である。

【図面の簡単な説明】

【0114】

【図1】 第1の実施の形態のコンテンツ作成装置の構成を示す図

【図2】 テンプレートのシナリオの例を示す図

【図3】 テンプレート再生の画面表示例を示す図

【図4】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図5】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図6】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図7】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図8】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図9】 テンプレートの選択画面例を示す図

【図10】 (a) テンプレート再生中の画面例を示す図 (b) 編集対象の選択画面例を示す図 (c) 画像の選択画面例を示す図 (d) テンプレート再生中の画面例を示す図

【図11】 (a) 編集対象の選択画面例を示す図 (b) テキストの入力画面例を示す図 (c) テンプレート再生中の画面例を示す図 (d) コンテンツ保存先の確認画面例を示す図

【図12】 一時記憶されたテンプレート選択情報を示す図

【図13】 コンテンツのシナリオの例を示す図

【図14】 コンテンツ再生時の画面表示例を示す図

【図15】 第2の実施の形態のテンプレートのシナリオの例を示す図

【図16】 テンプレート再生の画面表示例を示す図

【図17】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図18】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図19】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図20】 コンテンツ作成装置の動作を示す図

【図21】 コンテンツのシナリオの例を示す図

【図22】 コンテンツ再生時の画面表示例を示す図

【図23】 コンテンツのシナリオの例を示す図

【図24】 コンテンツ再生時の画面表示例を示す図

【図25】 第2の実施の形態におけるメディアデータ挿入によるコンテンツの変化を示す図


【図26】 第2の実施の形態の変形例におけるメディアデータ挿入によるコンテンツの変化を示す図

【図27】 テンプレート再生中の他の画面例を示す図

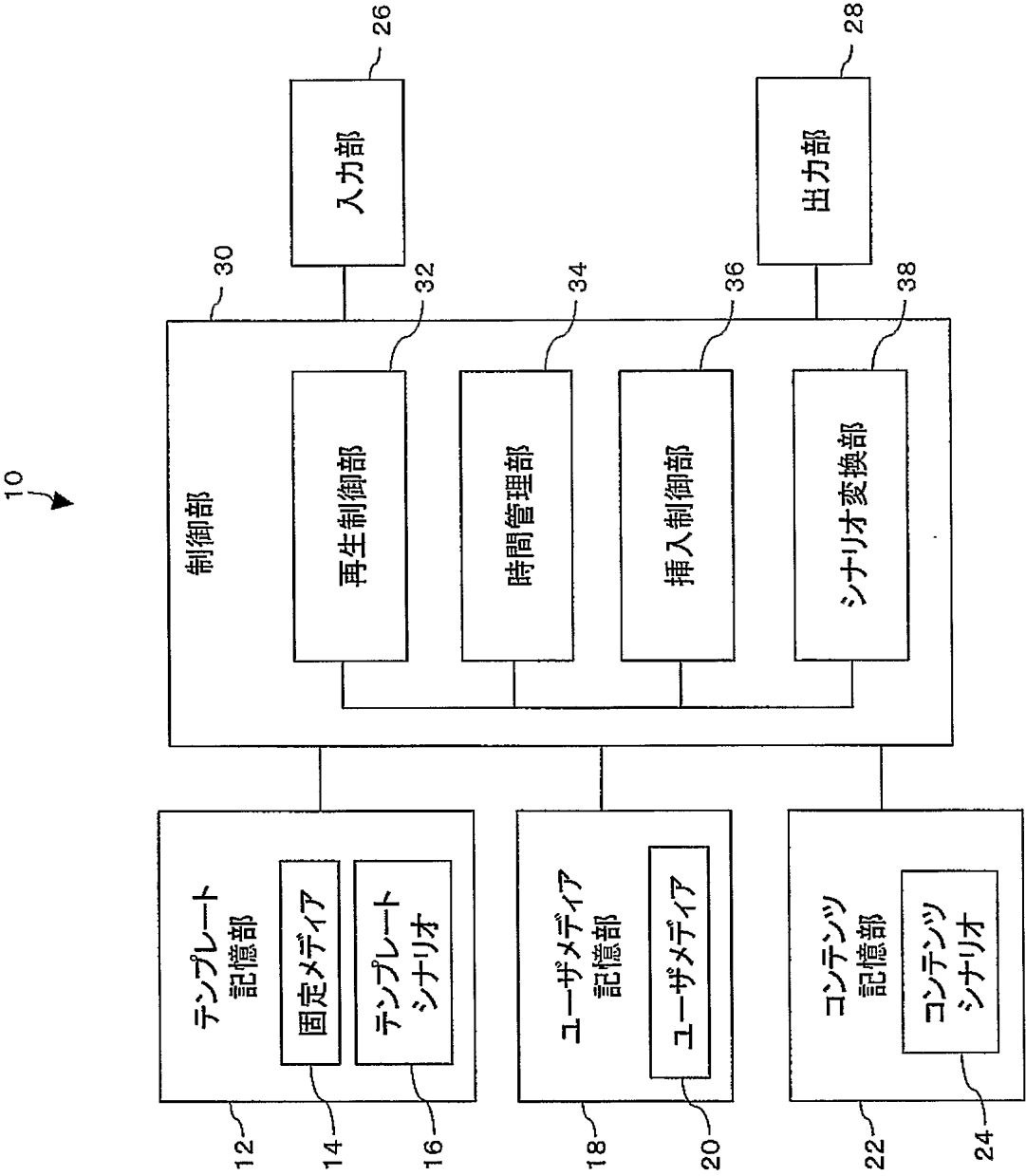
【符号の説明】

【0115】

- 10 コンテンツ作成装置
- 12 テンプレート記憶部
- 14 固定メディア
- 16 テンプレートシナリオ
- 18 ユーザメディア記憶部
- 20 ユーザメディア
- 22 コンテンツ記憶部
- 24 コンテンツシナリオ
- 26 入力部

- 
- 2 8 出力部
 - 3 0 制御部
 - 3 2 再生制御部
 - 3 4 時間管理部
 - 3 6 挿入制御部
 - 3 8 シナリオ変換部

【書類名】 図面
【図 1】

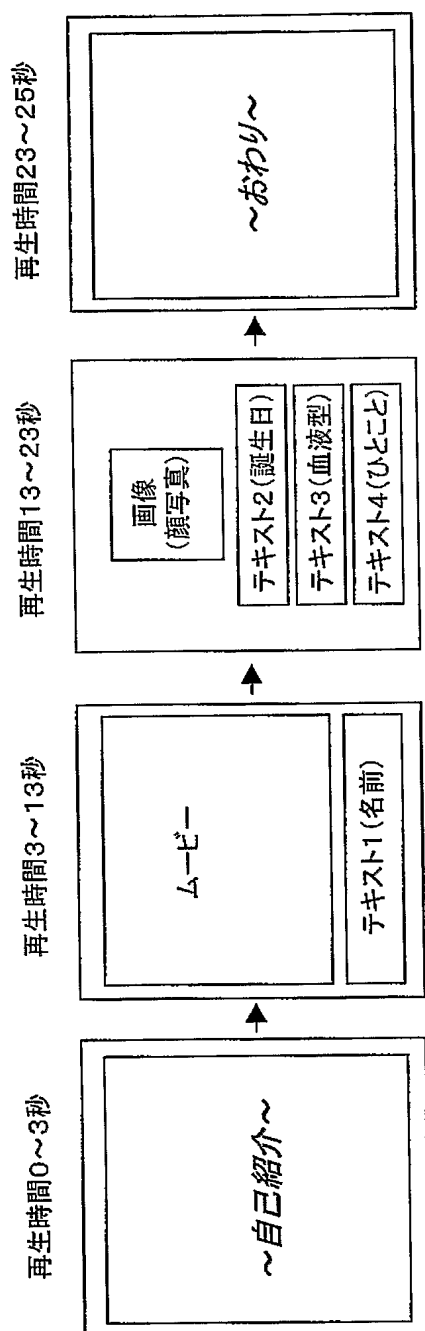


【図 2】

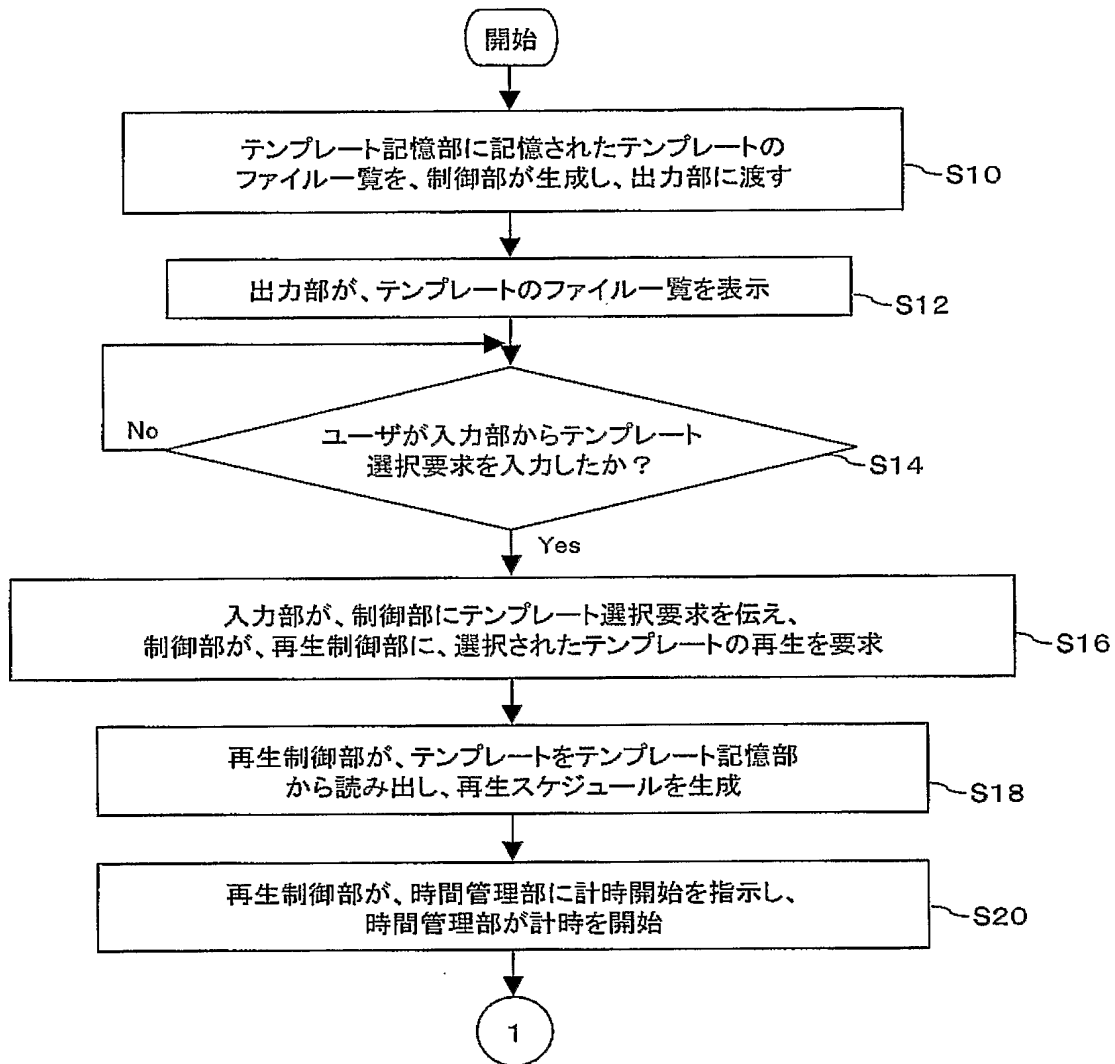
16
↓

開始	終了	表示領域	メディア	ガイド用メディア
0	3	5,5,200,200	open.mpg	なし
3	13	0,0,210,210	back1.jpg	なし
3	13	5,5,200,150	<u>ムービー</u>	image1.jpg
3	13	5,180,200,20	<u>テキスト1</u>	text1.txt
13	23	0,0,210,210	back2.jpg	なし
13	23	10,10,100,100	<u>画像</u>	image2.jpg
13	23	5,120,200,20	<u>テキスト2</u>	text2.txt
13	23	5,150,200,20	<u>テキスト3</u>	text3.txt
13	23	5,180,200,20	<u>テキスト4</u>	text4.txt
23	25	5,5,200,200	end.mpg	なし

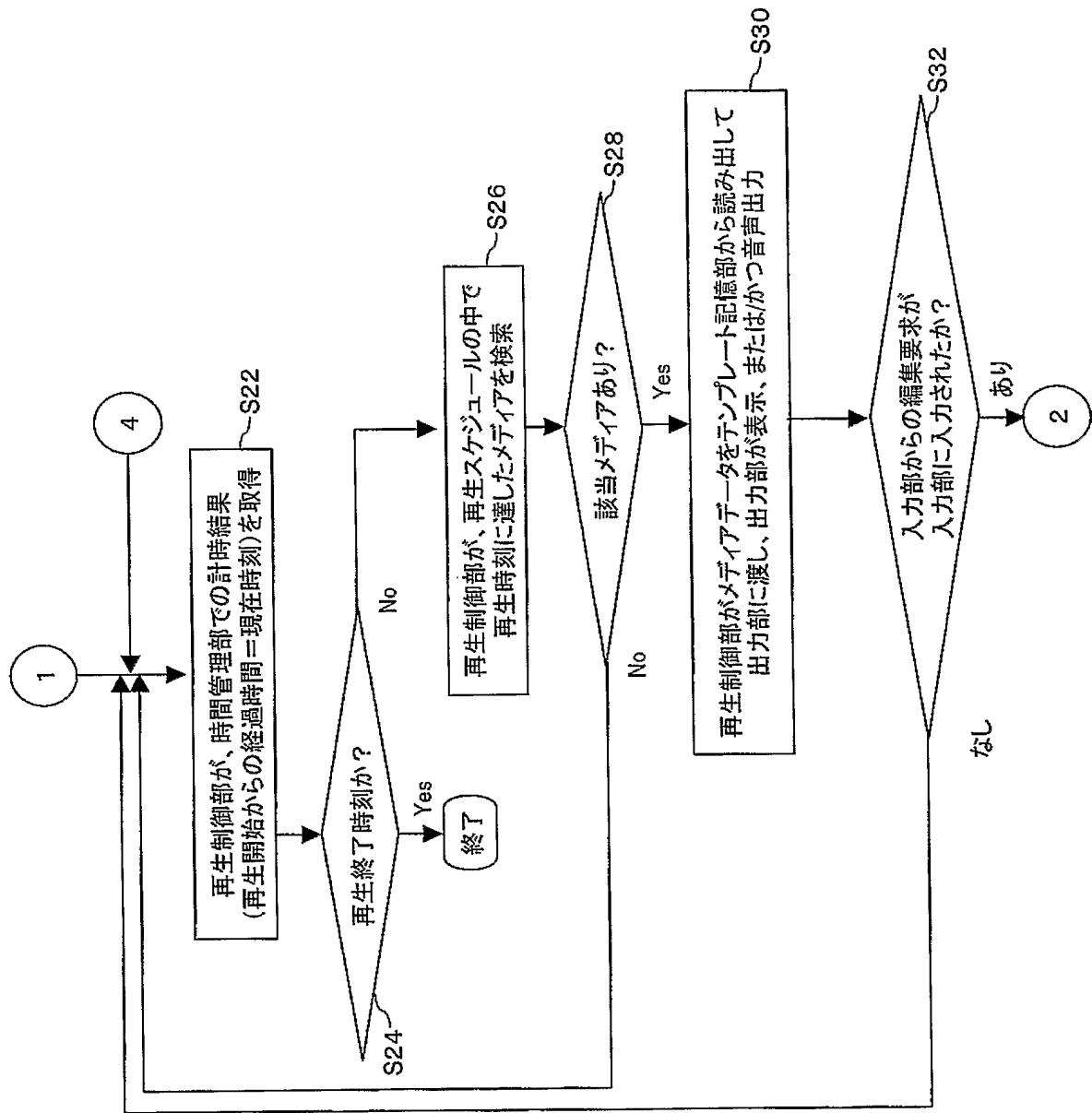
【図 3】



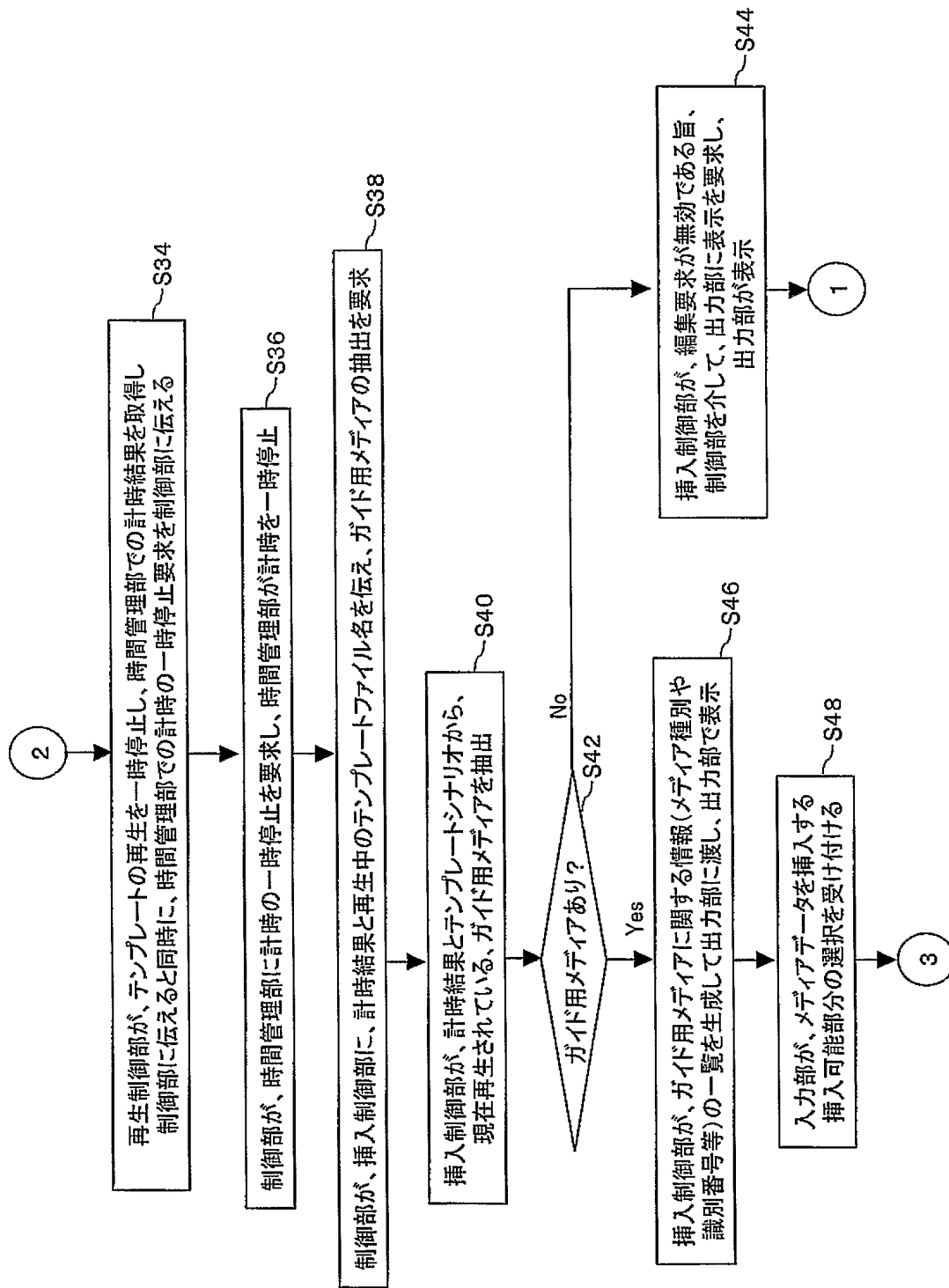
【図 4】



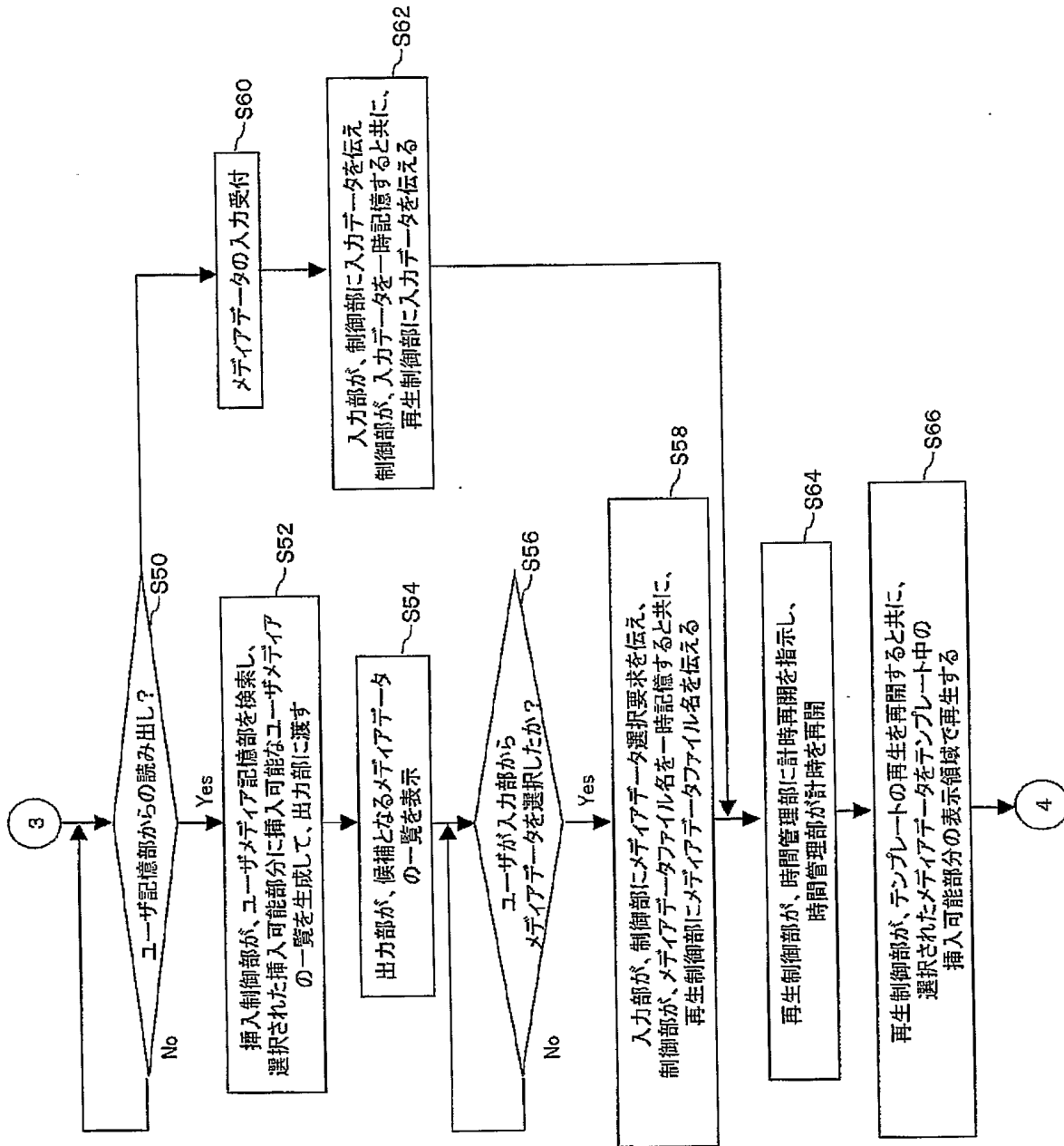
【図 5】



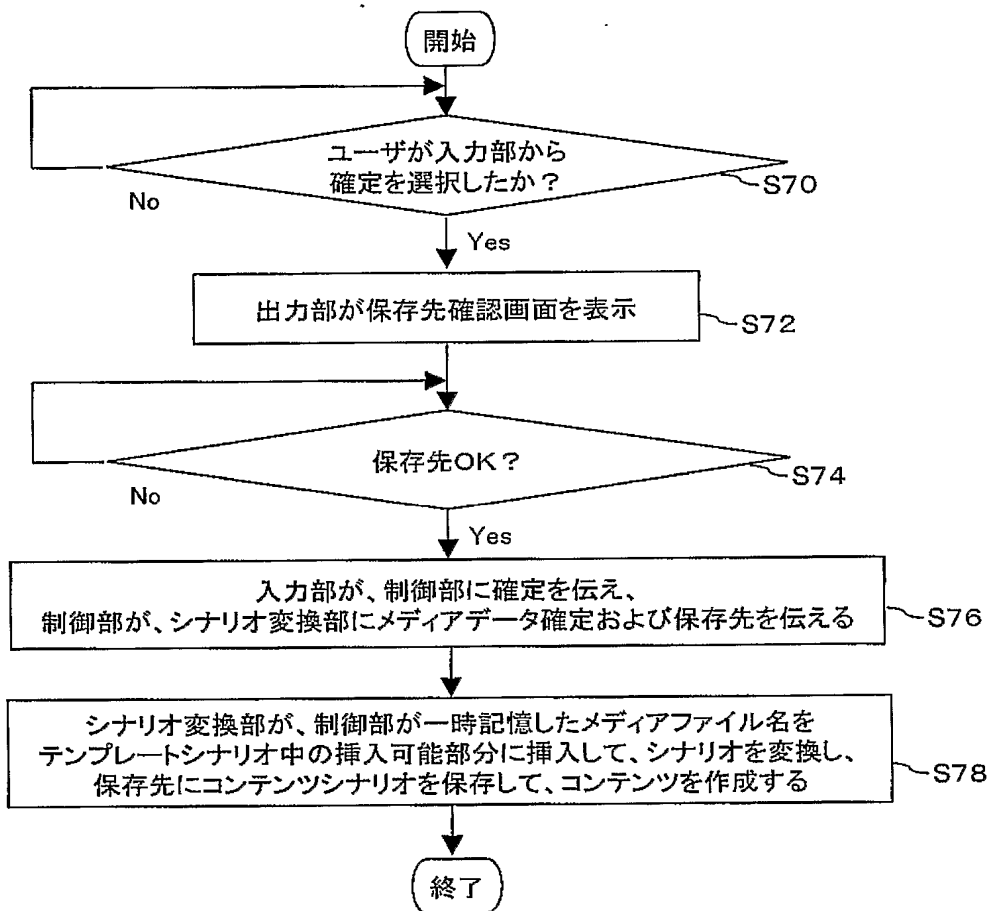
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

テンプレート一覧	
<input checked="" type="checkbox"/>	自己紹介
<input type="checkbox"/>	年賀状
<input type="checkbox"/>	暑中見舞
<input type="checkbox"/>	引越し

【図 10】

編集対象の選択

画像

テキスト2
テキスト3
テキスト4

選択

(b)

デキスト2(誕生日)
デキスト3(血液型)
デキスト4(ひとこと)

編集 確定

(d)

画像
(顔写真)

デキスト2(誕生日)
デキスト3(血液型)
デキスト4(ひとこと)

編集

(a)

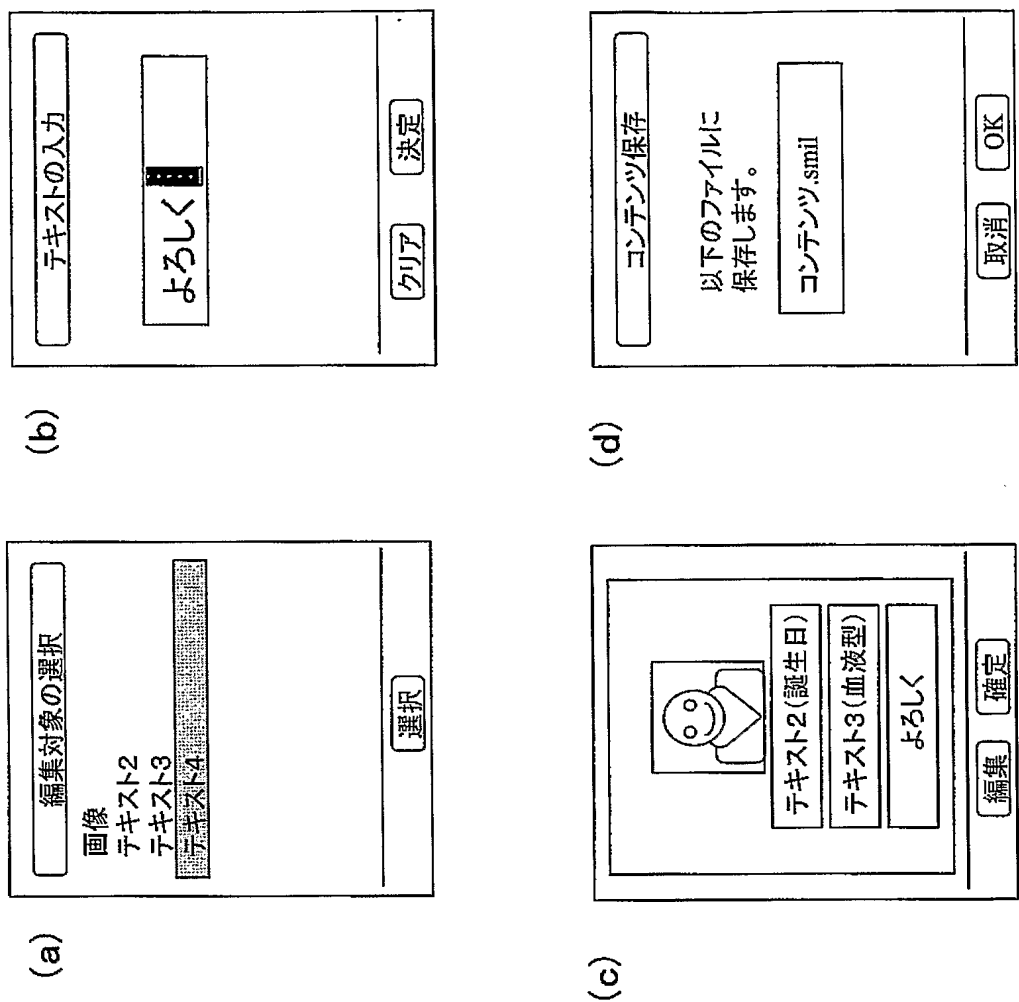
画像の選択

画像1
画像2
画像3
画像4
画像5
画像6
画像7
画像8

選択

(c)

【図 1 1】



【図 1 2】

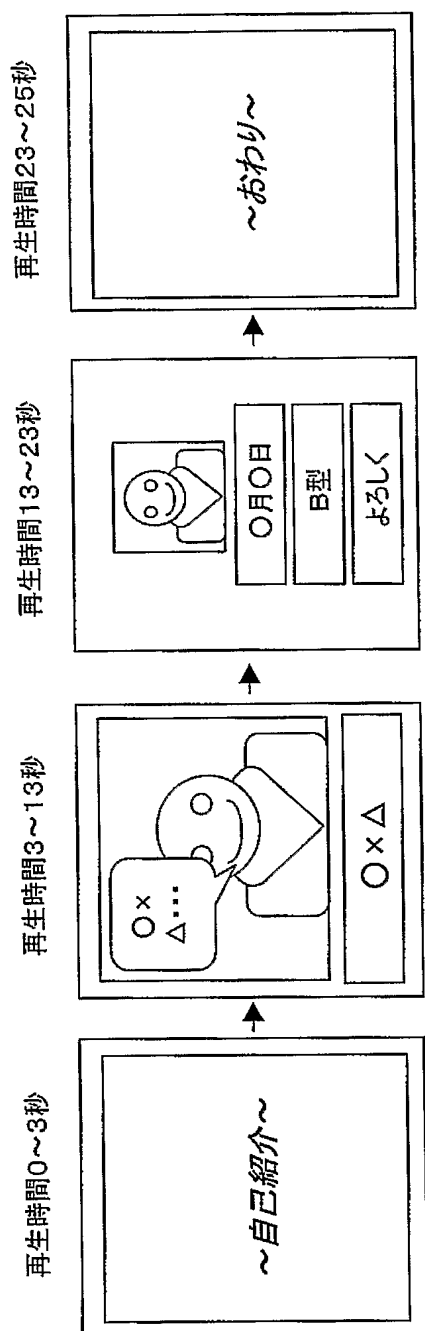
挿入可能部分	メディアデータ
ムービー	ムービー1
画像	画像2
テキスト1	○×△
テキスト2	○月○日
テキスト3	B型
テキスト4	よろしく

【図 1 3】

24
↓

開始	終了	表示領域	メディア
0	3	5,5,200,200	open.mpg
3	13	0,0,210,210	back1.jpg
3	13	5,5,200,150	<u>my-video.mpg</u>
3	13	5,180,200,20	<u>my-name.txt</u>
13	23	0,0,210,210	back2.jpg
13	23	10,10,100,100	<u>my-photo.jpg</u>
13	23	5,120,200,20	<u>my-birth.txt</u>
13	23	5,150,200,20	<u>my-blood.txt</u>
13	23	5,180,200,20	<u>my-comment.txt</u>
23	25	5,5,200,200	end.mpg

【図 14】

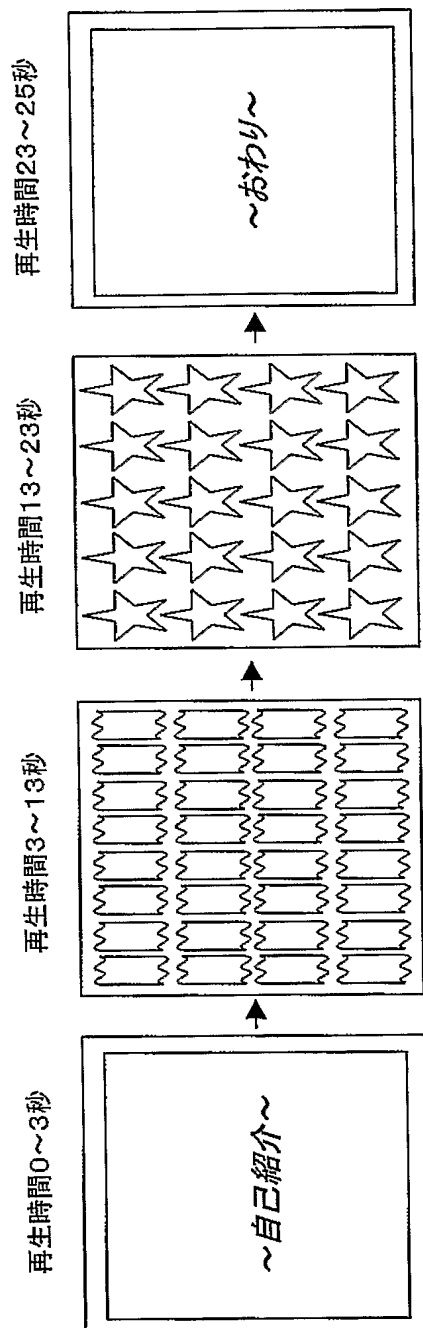


【図 15】

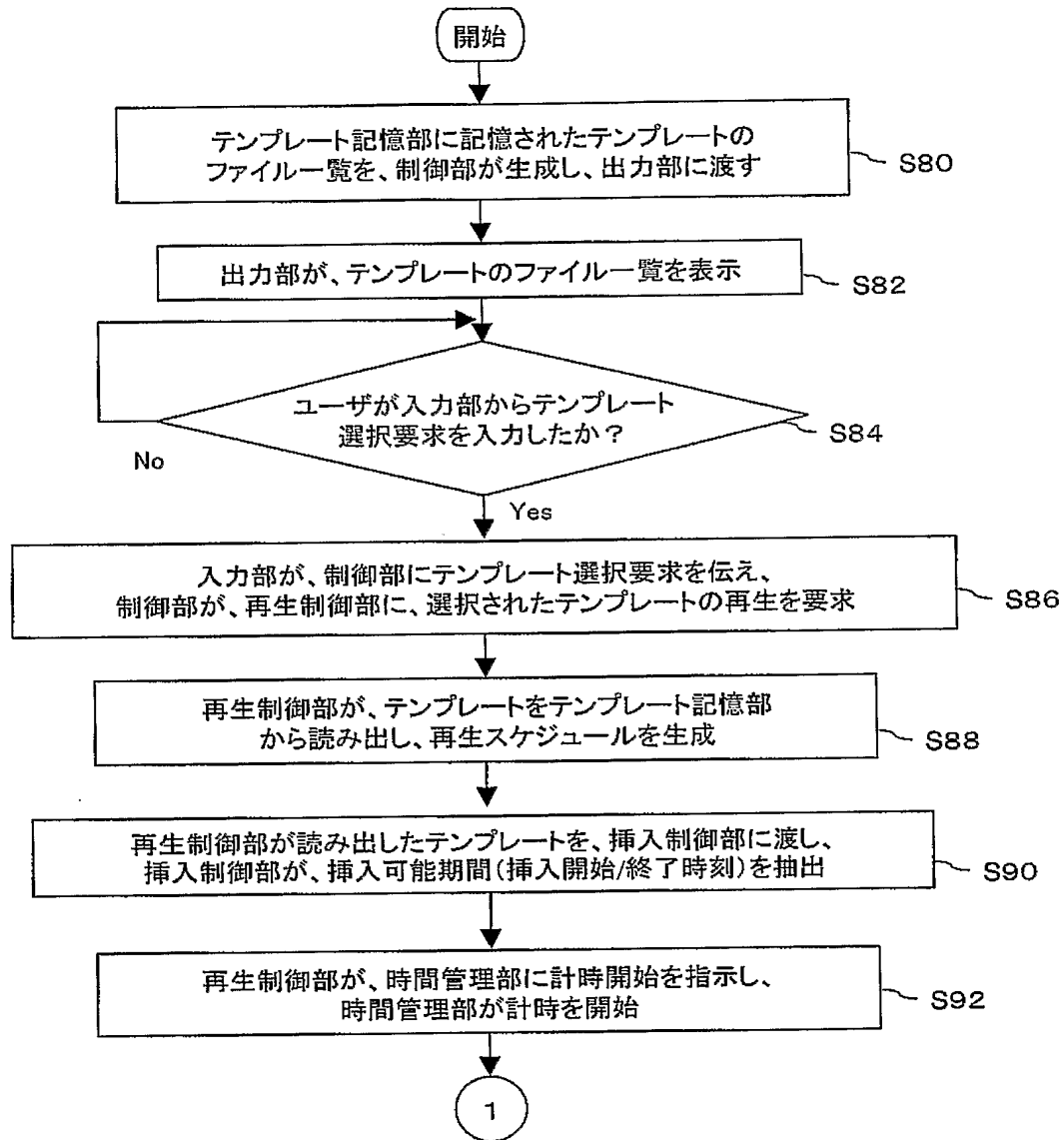
16
↓

開始	終了	表示領域	メディア
0	3	5,5,200,200	open.mpg
3	13	0,0,210,210	back1.jpg
3	13	-----	挿入可能
13	23	0,0,210,210	back2.jpg
13	23	-----	挿入可能
23	25	5,5,200,200	end.mpg

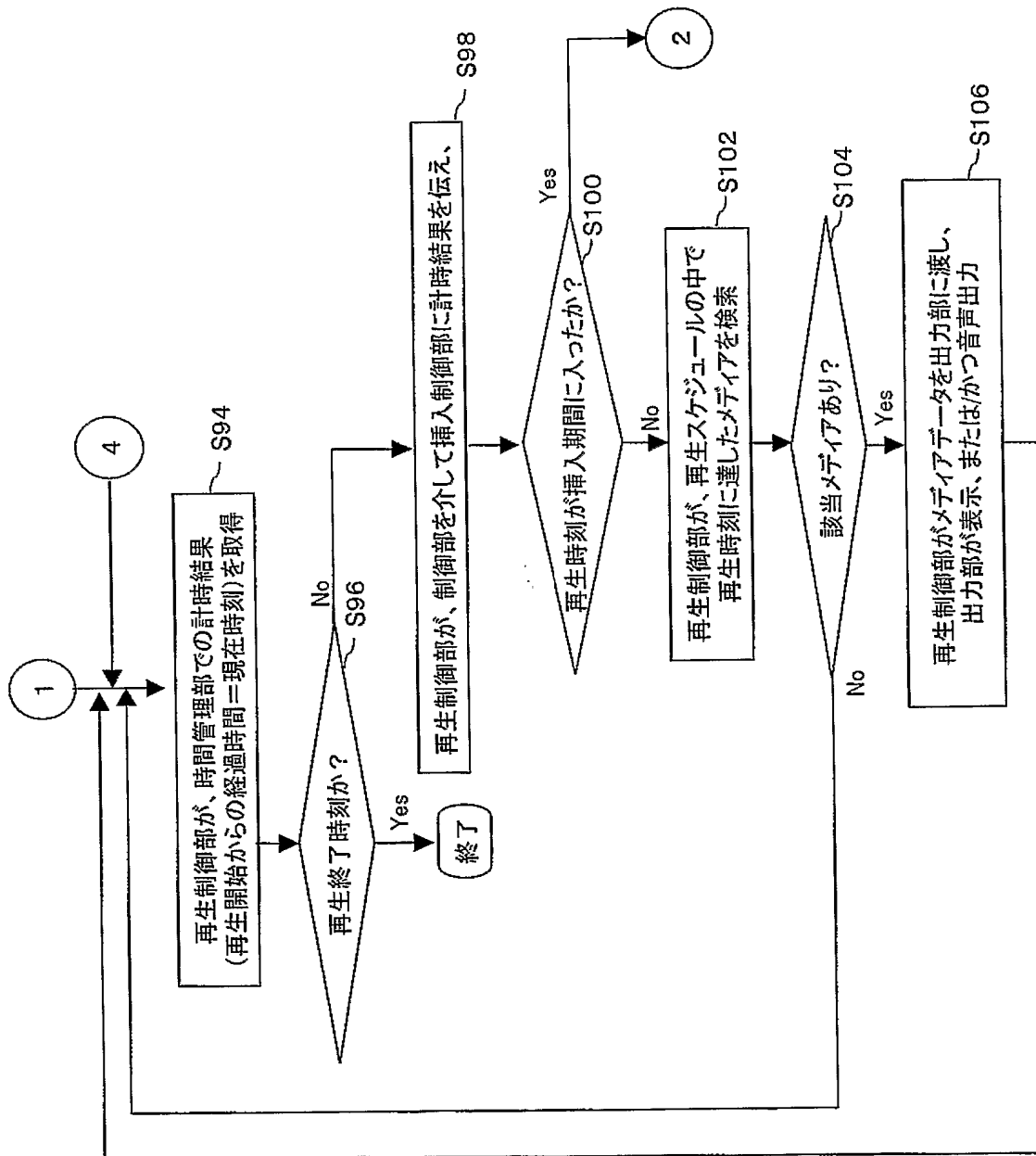
【図 16】



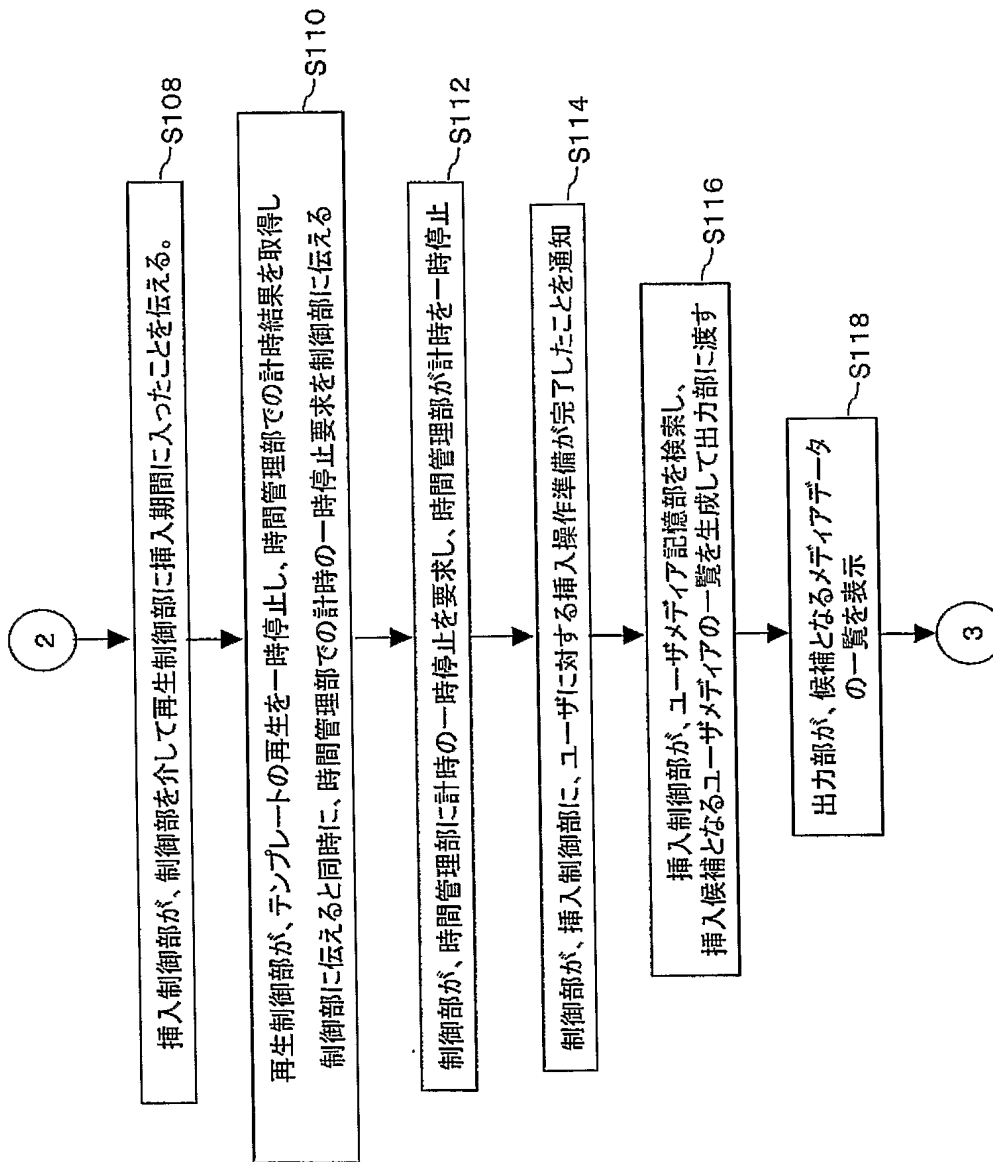
【図 17】



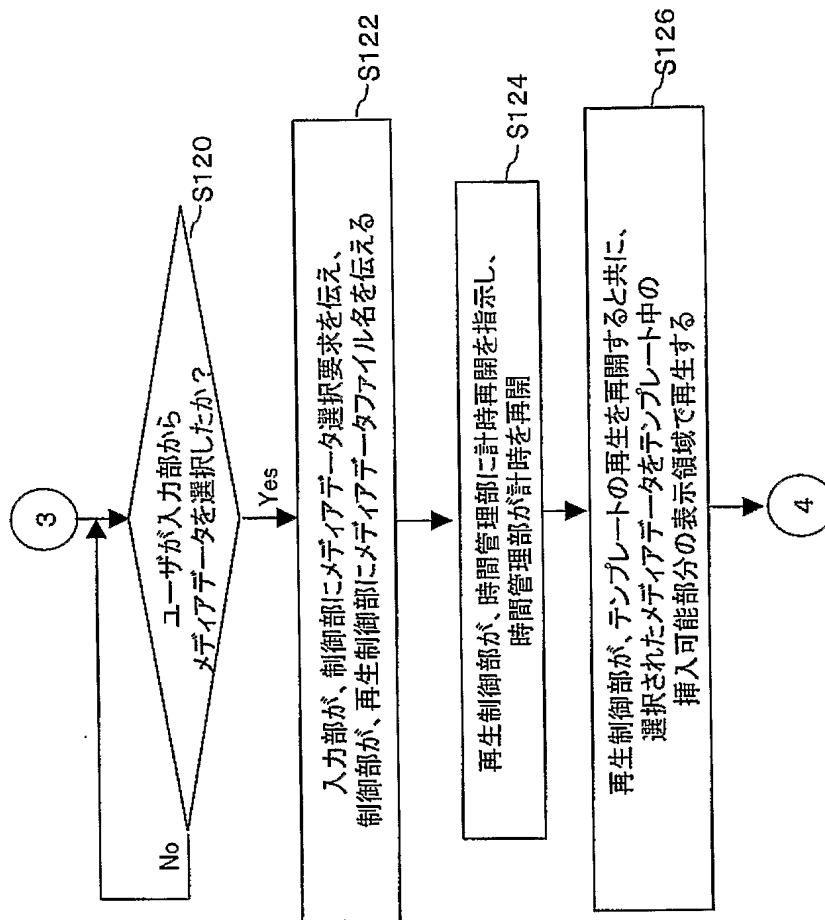
【図 18】



【図19】



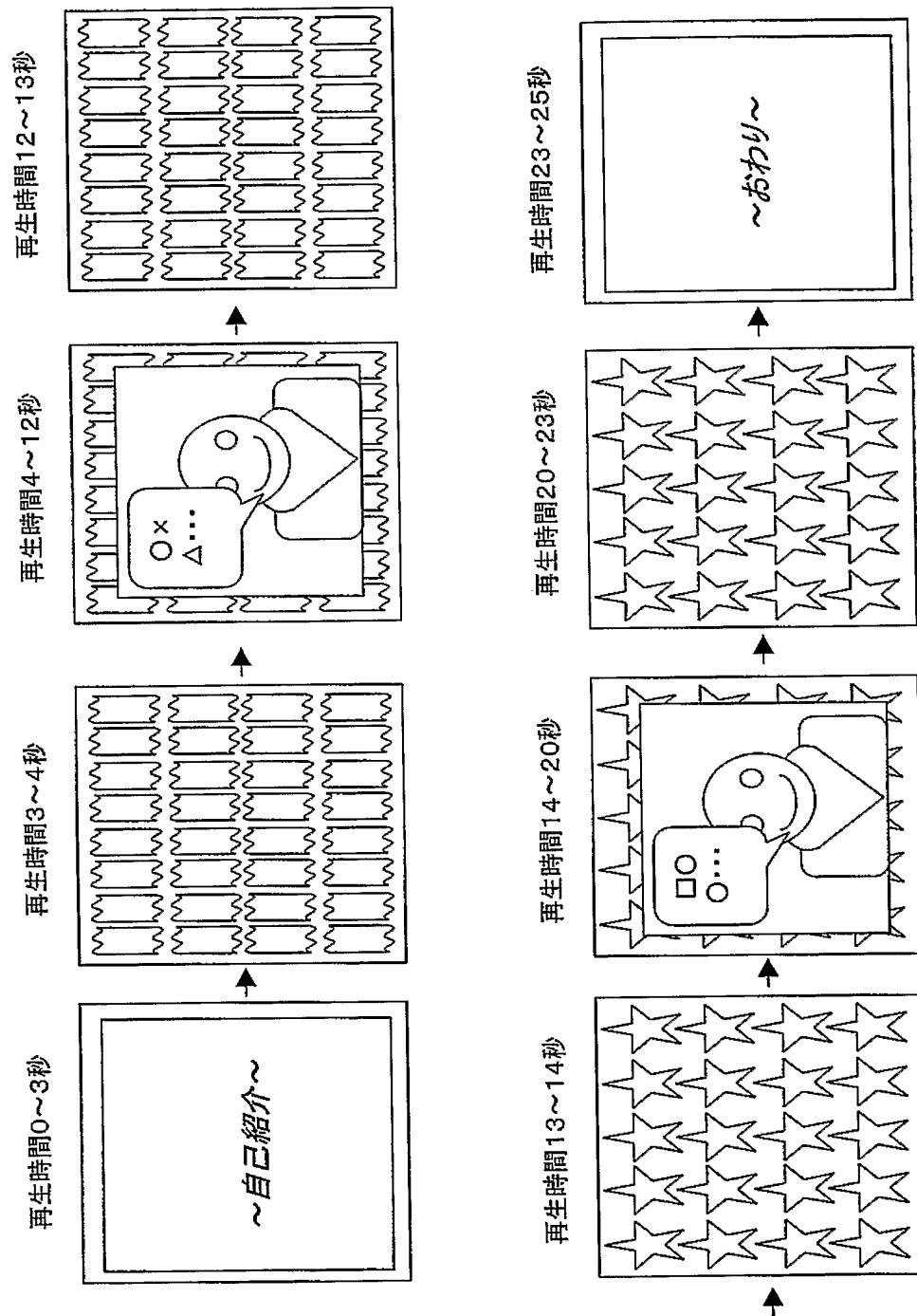
【図 20】



【図 21】

開始	終了	表示領域	メディア
0	3	5,5,200,200	open.mpg
3	13	0,0,210,210	back1.jpg
<u>4</u>	<u>12</u>	メディアサイズ	<u>my-video1.mpg</u>
13	23	0,0,210,210	back2.jpg
<u>14</u>	<u>20</u>	メディアサイズ	<u>my-video2.jpg</u>
23	25	5,5,200,200	end.mpg

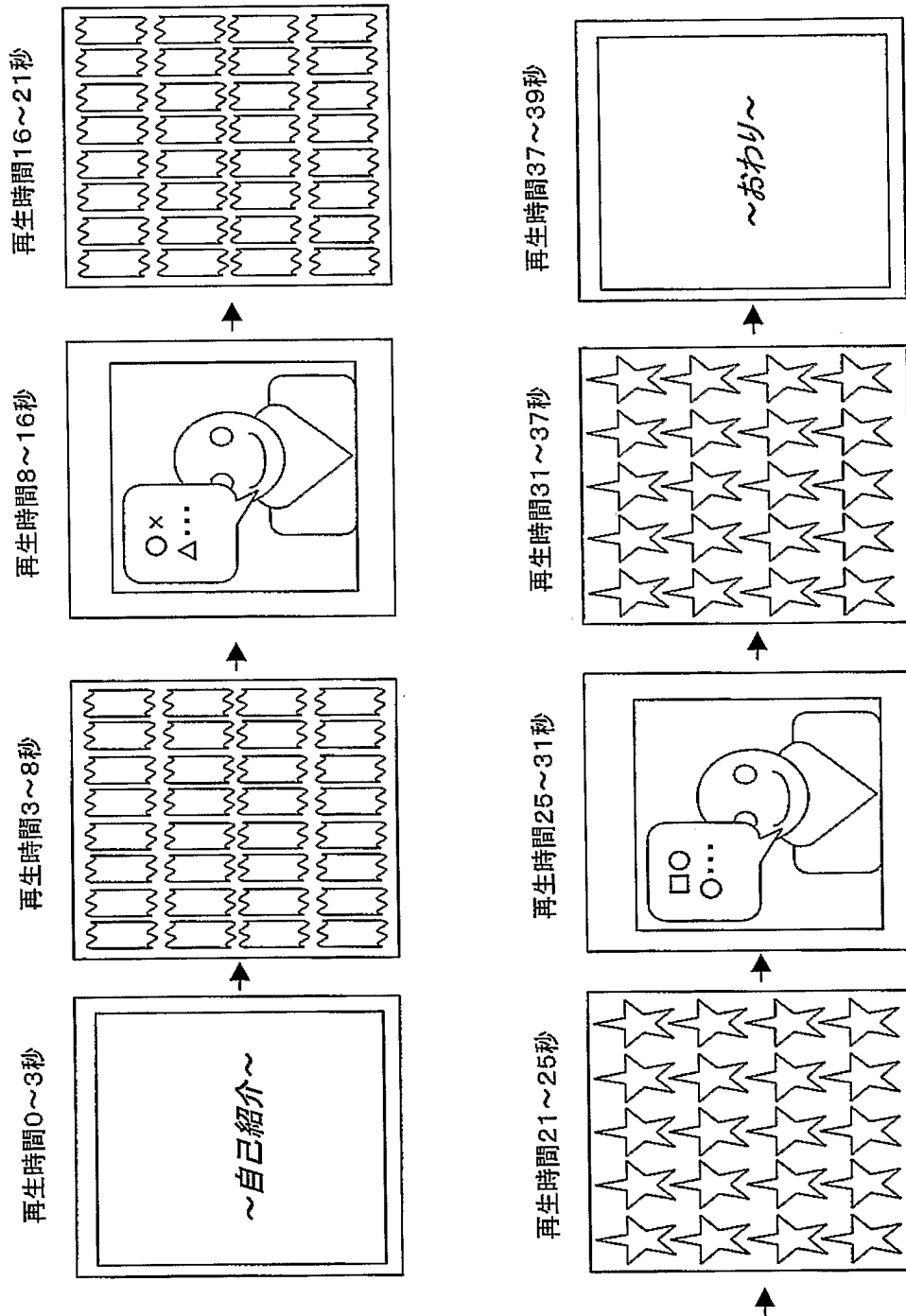
【図 22】



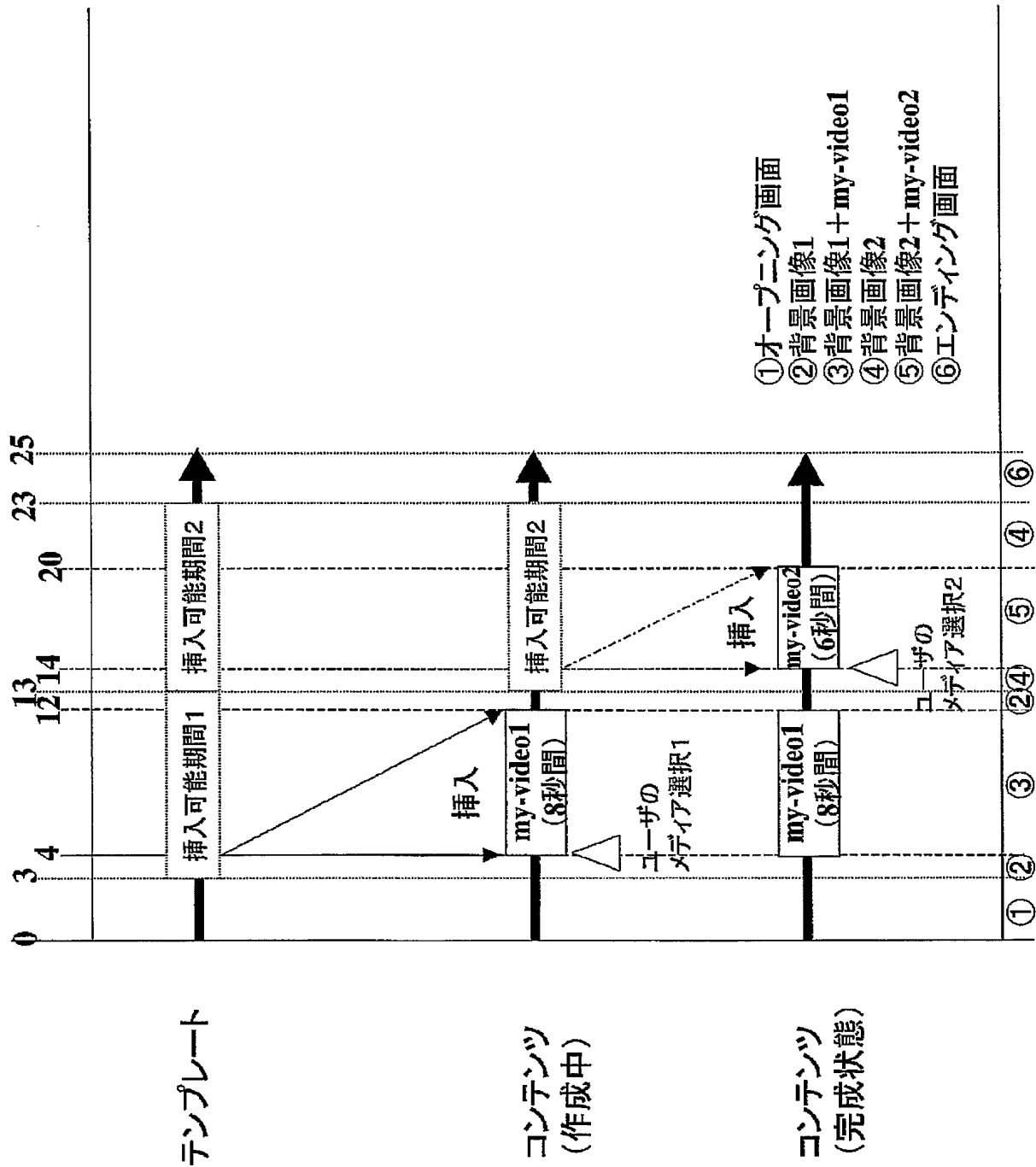
【図 23】

開始	終了	表示領域	メディア
0	3	5,5,200,200	open.mpg
3	8	0,0,210,210	back1.jpg
<u>8</u>	<u>16</u>	メディアサイズ	<u>my-video1.mpg</u>
16	21	0,0,210,210	back1.jpg
21	25	0,0,210,210	back2.jpg
<u>25</u>	<u>31</u>	メディアサイズ	<u>my-video2.jpg</u>
31	37	0,0,210,210	back2.jpg
37	39	5,5,200,200	end.mpg

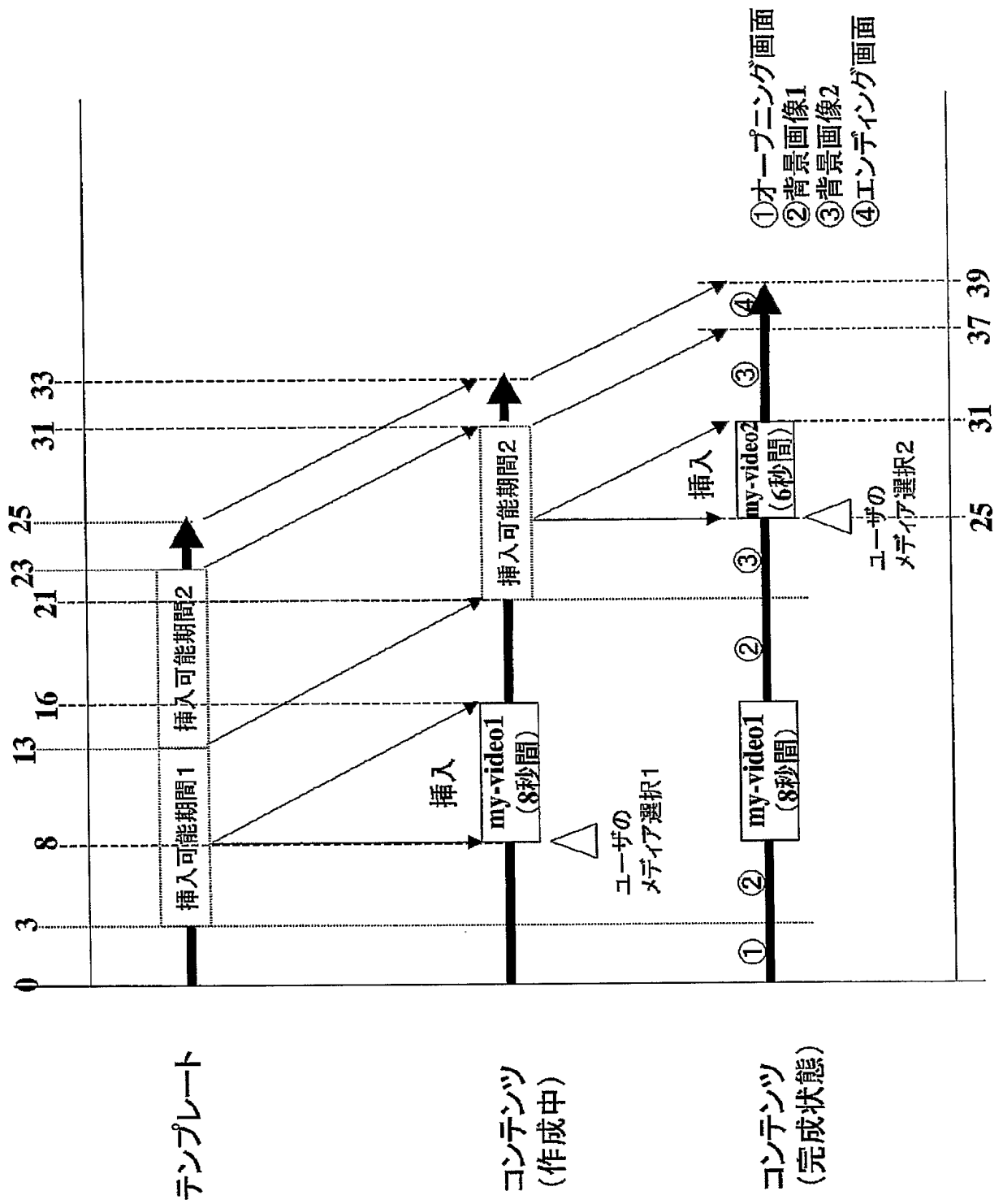
【図24】



【図 25】



【図 26】



【図 2 7】

画像
(顔写真)

テキスト1(誕生日)

テキスト2(血液型)

テキスト3(ひとこと)

編集

♪

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 マルチメディアテンプレートに合ったメディアデータを選択可能なマルチメディアコンテンツ作成装置を提供する。

【解決手段】 コンテンツ作成装置 1 0 は、マルチメディアテンプレートを再生する再生制御部 3 2 と、再生制御部 3 2 によるマルチメディアテンプレートの再生中に、マルチメディアテンプレートに挿入するメディアデータの選択に関わるユーザの指示を受け付ける入力部 2 6 と、入力部 2 6 を介して受け付けたメディアデータを挿入してマルチメディアテンプレートを再生制御部 3 2 に再生させる制御部 3 0 と、入力部 2 6 を介して選択されたメディアデータの確定に応じて、マルチメディアテンプレートと確定されたメディアデータとに基づいてマルチメディアコンテンツを作成するシナリオ変換部 3 8 とを備える。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 4 - 0 2 9 8 6 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 8 2 1]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 8 日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地

氏 名

松下電器産業株式会社